

第十四回 貴族院議事速記録第十八號

帝國議會

明治三十三年二月七日(水曜日)

午前十時十八分開議

議事日程 第十八號 明治三十三年二月七日

午前十時開議

第一 土地收用法案(議院提出衆)

第二

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三

郵便爲替法案(議院提出衆)

第四

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五

電信法案(議院提出衆)

第六

右議案審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第七

郵便法案(議院提出衆)

第八

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第九

鐵道船舶郵便法案(議院提出衆)

第十

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十一

衆議院議員選舉法改正法律案(議院提出衆)

第十二

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十三

法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關

シ事犯アリタル場合ニ關スル法律

第一讀會ノ續(特別委員)

案(政府提出)

第十四

鑄業條例中改正法律案(議院提出)

第十五

民法施行法中改正法律案(衆議院提出)

第十六

韓國京釜鐵道速成ニ關スル建議案(子爵岡部長職)

第十七

帝國教育會國庫補助ニ關スル建議案(子爵長岡謙美)

第十八

裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案特別委員會

第十九

蟲害地地租特別處分法案

第二十

保險業法案特別委員會

第二十一

委員長 公爵德川家達君 副委員長 男爵尾崎三良君

第二十二

府縣郡町市村其ノ他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律案特別委員會

第二十三

委員長 伯爵正親町實正君 副委員長 松岡康毅君

第二十四

蠶種檢查法改正法律案特別委員會

第二十五

委員長 村田保君 副委員長 伯爵大原重朝君

第二十六

裁判所設立及管轄區域變更ニ關スル法律案特別委員會

第二十七

貴族院議事速記錄第十八號

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

一昨五日本院ニ於テ可決シタル左ノ諸案ハ即日内閣總理大臣ヲ經由シテ裁

可ヲ奏請シ及可決ノ旨衆議院ニ通知セリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ書記官朗讀

政府提出

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案

賣藥規則中改正法律案

衆議院提出

商法中署名スヘキ場合ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院ニ送付セリ

明治二十九年法律第九十二號廢止法律案

會計檢查院法中改正法律案

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院ニ送付セリ

船舶檢查中改正法律案

會計檢查官懲戒法案

同子爵長岡護美君、子爵鍋島直彬君、辻新次君、男爵南岩倉具威君、野崎武吉郎君ヨリ百十一名ノ賛成ヲ以テ帝國教育會國庫補助ニ關スル建議案ヲ發議セラレタリ

同日本院ニ於テ判決シタル荒野由次郎君選舉爭訟ノ件ハ即日其ノ議決贍本ヲ原告及被告ニ送達セリ

昨日六日左ノ衆議院提出案ヲ受領セリ

東京市ニ關スル法律案

殖林ノ爲設定シタル地上權登記ニ關スル法律案

蟲害地地租特別處分法案

重要物產同業組合法案

委員長副委員長左ノ適當選セラレタリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ本日ノ日程ニ移リマス、土地收用法案、

政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載錄ス以下之ニ同シ〕

土地收用法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十三年二月三日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

土地收用法

第一章 總則

第二章 事業ノ準備

第三章 事業ノ認定

第四章 收用ノ手續

第五章 收用審查會

第六章 損失ノ補償

第七章 收用ノ效果

第八章 費用ノ負擔

第九章 監督、強制及罰則

第十章 訴願及訴訟

附 則

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用ス

ルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スル

コトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一二該當ス

ルモノナルコトヲ要ス

一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業

二 官廳又ハ公署建設ニ關スル事業

三 教育、學藝又ハ慈善ニ關スル事業

四 鐵道、軌道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、電氣機、瓦斯燈又ハ火葬場ニ關スル事業

五 衛生、測候、航路標識、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ナ以テ國府縣
郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ
ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ
他ノ行爲ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力
ナ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有
者ナ謂フ

本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有
スル者ナ謂フ

第十九條 地方長官ノ公告又ハ通知ノ後其ノ土地ニ關シテ權利ヲ取得シ
タル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在
ラス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル期間ノ計算法、通
知ノ方法及書類ノ送達ニ關シテハ勅令ナ以テ之ヲ定ム

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以
外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用
ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ
土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲
スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ帝室又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣

又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知スヘシ
地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種
類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘ
シ

第十九條 地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ事業ノ準備ノ爲其ノ土
地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セ
ス

第十條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日前ニ其ノ日時

及場所ヲ市町村長ニ通知スヘシ市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

邸宅ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ豫ノ其ノ占有者ニ通知スヘシ

日出前日沒後邸宅ニ立入ル場合ニ於テハ起業者ハ特ニ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第九條ノ規定ニ依ル測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障害物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障害物ノ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第三章 事業ノ認定

第十二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内閣之ヲ認定ス但シ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 起業者カ内閣ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請スヘシ内務大臣ハ之ヲ審査シ内閣ニ提出スヘシ

帝室又ハ國ノ起業ニ係ルトキハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ協議ヲ爲シ之ヲ内閣ニ提出スヘシ

第十四條 内閣カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類及起業地ヲ公告スヘシ

第十五條 天災事變ニ際シ急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ郡市長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急施ヲ要スル事業ノ爲土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ郡市長ニ通知スヘシ

第十六條 起業者カ郡市長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

第十七條 郡市長カ認定ヲ爲シタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及使用ノ期間ヲ定メ郡市長ニ申請スヘシ

郡市長カ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ

第十八條 起業者カ内閣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲ササルトキハ其ノ認定ハ効力ヲ失フ

第四章 收用ノ手續

第十九條 内閣ノ認定ノ公告ノ後起業者ノ申請ニ依リ地方長官ハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ公告スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日沒後ハ占有者ノ承諾アルニ非サレハ邸宅ニ立入ルコトヲ得ス

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ必要ト認ムルトキハ土地所有者又ハ關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調書ヲ作ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調書ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルコトヲ得但シ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス

土地所有者又ハ關係人カ調書ノ必要ヲ認メタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リタル調書ノ記載事項ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第二十二條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類

收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數

量但シ土地物件カ分割ナ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建

坪等ヲ併記スヘシ

損失補償ノ見積金額及内譯

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

收用審查會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人

ニ通知スヘシ

第二十四條 前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ地方長官ハ之ヲ市町村長ニ下付

スヘシ市町村長ハ豫メ公告ナ爲シ一週間之ヲ公衆ノ縱覽ニ供スヘシ

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縱覽期間ノ初日ヨリ二週間内ニ地

方長官ニ意見書ヲ差出スコトナ得

第二十六條 地方長官ハ前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審查會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審查會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地

方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトナ得

第二十八條 收用審查會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官

ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審查會ニ一定ノ

期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトナ命シ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトナ

地方長官ニ命スルコトナ得

收用審查會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲ササルトキハ地方長官ハ之ニ代テ

裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審查會カ招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ地方長官ハ

内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトナ得事業ノ急施ヲ要スル

トキ亦同シ

第三十條 收用審查會カ裁決ヲ爲シタルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ

地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審查會ニ代テ裁決ヲ爲シタルトキ

ハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内閣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ

必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ

増築ノ爲土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本章
ノ規定ニ依ルコトナ得

第三十三條 郡市長カ認定ヲ爲シ又ハ第十五條第三項ノ通知ヲ受ケタルト

キハ第十七條ノ通知ノ後起業者ヲシテ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコト
ヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依ルヘシ

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ

收用審查會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審查會

第三十五條 收用審查會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メ
テ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキ
ハ收用審查會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第三十六條 收用審查會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會
ヲ代表ス

第三十八條 委員ハ高等文官及府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ
高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命シ府縣名譽職參事會員
ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス

第三十九條 收用審查會ハ委員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコ
トヲ得ス

收用審查會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル
所ニ依ル

第四十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審查會
ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、
代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村
ノ市參事會員、町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無
限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルト
キ亦前項ニ同シ

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方
長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セサル者ノ内ヨリ
臨時ニ指名シテ之ヲ補充スヘシ

一 府縣名譽職參事會員

二 府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 府縣會議員

第四十一條 収用審查會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 収用審查會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ヒ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 収用審查會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審查會ハ事實參考ノ爲必要ト認ムルトキハ收用又ハ使用スヘキ土地以外ノ土地所有者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長及委員之署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ押捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 二府縣以上ニ涉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定期所ニ從ヒ合同シテ收用審查會ヲ開クコトヲ得

第六章 損失ノ補償

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受クル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十八條 収用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ殘地ノ料金ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ
第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 収用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉得

セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 前條ノ移轉料ニシテ其ノ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ通路、溝渠、墻柵等ノ新築、改築、增築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ補償スヘシ

第五十四條 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十五條 土地ノ使用カ三箇年以上ニ亘ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボシタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 収用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ之ヲ供託スルコトヲ得

一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサル

トキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ
但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額

ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引

渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲タル場合ニ於テハ起業者ノ請求

ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能

ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサル

トキ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲

ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ナ失フ但シ土地所有者及關係

人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトナ妨ケス

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者

之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業者之ヲ取得シ其

ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノ

ハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スヘキ土地物件カ土地所

有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ般損シタル

トキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因

リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトナ得但シ其ノ拂渡

前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因

テ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ

其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買取ルコトナ得但シ第五十條ノ規定ニ

依リテ收用シタル殘地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サレハ之

ヲ買受ルコトナ得ス

前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第八章 費用ノ負擔

第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル

命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シ

タル費用ハ各其ノ負擔トス

第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタ

ルモノナ除クノ外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付

テ亦同シ

第七十條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ

事項ヲ自ラ執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府

縣ノ負擔トス

府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトナ得但シ其ノ義務者

ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ニ充ツルコトナ得

第七十一條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ

場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第九章 監督強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シ

タル裁決ハ内務大臣之ヲ取消スコトナ得

第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ義務

ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモノ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ

地方長官ハ自ラ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトナ得

義務者カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セサ

ル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依ルコト能ハザルトキハ地方長官ハ直接ニ之

ヲ強制スルコトナ得

第七十四條 前章ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セサル者アルトキハ行政廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトナ得

前項ノ費用ニ付テハ行政廳ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第七十五條 収用審查會員人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ賄賂ヲ

贈遺シ又ハ贈遺スルコトナ約シタル者亦同シ

第七十六條 第十一條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ障害物ヲ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十七條 第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シ行政廳ノ許可ヲ得スシテ土地ニ立入りタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 故ナク鑑定人タルコトナ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトナ拒ミタルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 鑑定人トシテ収用審查會ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑托シテ詐偽ノ鑑定ヲ爲サシメタル者亦同シ

第八十條 鑑定人又ハ第四十三條若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ヲ受ケタル者故ナク出頭セサルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十章 訴願及訴訟

第八十一條 収用審查會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトナ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

本法ノ規定ニ依シ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願ヲ提起スルコトナ得ス

第八十二條 収用審查會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトナ得但シ裁決書謄本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ訴訟ハ収用審查會ニ對シテ之ヲ提起スルコトナ得

第五十九條 ノ規定ニ依ル地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第八十三條 本法ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ収用又ハ使

用ヲ停止セス

附 則

第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハシテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ヶ現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ準用ス

第八十六條 収用審查會ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テハ地方長官之ヲ行フ

郡長ノ爲スヘキ職務ハ支廳長又ハ島司ヲ置キタル地ニ於テハ支廳長又ハ島司之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ヲ置カサル地ニ於テハ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ支廳長又ハ島司ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

市長ノ爲スヘキ職務ハ北海道及沖繩縣ニ於テ區長ヲ置キタル地ニ於テハ町村長ノ爲スヘキ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ準スヘキ吏員之ヲ行ヒ町村長ニ準スヘキ吏員ヲ置カサル地ニ於テハ郡長ニ準スヘキ吏員之ヲ行フ

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十號土地收用協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

ス

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君) 土地收用法案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、現行ノ土地收用法ハ明治二十二年ニ發布セラレタノデゴザイマス、其後實施ノ結果、種々不備ノ點ヲ感ジマシテ、現ニ昨年ノ法律第七十二號ヲ以チマシテ

レドモ、尙ホ其他ニ於テ種々不備ナ點ガアリマスル、第一ニハ收用法ヲ適用ス

ベキ事業ノ範圍ガ狹キニ失シテ居ル、即チ現行法ニ於キマシテハ工事ナ行ブノ際ニ於テハ收用ヲ行フコトガ出來マスケレドモ、工事がナクシテ單ニ事業ノ爲ニ收用スルコトハ出來マセヌ、ソレカラ又收用法發布後種々ノ事業が發達致シマシテ、例ヘバ電氣事業ノ如キハ其後段々發達致シマシタケレドモ、其當時ニ於テ豫想シテ居リマセヌ結果、收用法ヲ適用スルコトガ出來マセヌト云フ事柄ガゴザリマス、其外現行法ハ補償ノ義務並ニ收用ノ效果等ニ附イテノ規定モ不完全デアリマスルシ、收用ノ手續ニ於キマシテモ收用ノ裁決ガ或ハ遷延スルト云フ弊害モアリマスルシ、其他收用者ノ權利ヲ保護シマスル點ニ於キマシテモ、起業者ノ事業ノ發達ヲ助タル點ニ於テモ種々不完全ナ點ヲ認メテ居ル、ソレ等ハ各條ニ於キマシテ現行法ト此法案ノ差異ノアル所ヲ御覽下サイマシタナラバ御了承下サイマスルコトデゴザリマス、尙ホ詳細ノコトハ御質問ガゴザリマスレバ御答致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段ニ御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、議長指名ニ異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○平松時厚君 是カラ決算委員ノ主査會ヲ催シタウゴザリマスカラ……
○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザリマス
○宮島誠一郎君 本員モ決算委員會ニ參リタウゴザリマス
○公爵德川家達君 是ヨリ保険業法案ノ委員會ヲ開キタウ存ジマス
○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザリマス、郵便爲替法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

郵便爲替法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十三年二月三日 衆議院議長片岡健吉

郵便爲替法

第一條 郵便爲替ハ通常爲替電信爲替及小爲替ノ三種トス

第二條 通常爲替證書及小爲替證書ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ除クノ外差出人ニ於テ之ヲ受取人ニ送達ス

電信爲替證書ハ郵便官署ニ於テ之ヲ其ノ受取人ニ送達ス
第三條 郵便官署ハ差出人ノ請求ニ因リ通常爲替證書及電信爲替證書ニ對スル郵便爲替金ノ拂渡前ニ於テ其ノ拂渡ヲ停止シ又ハ其ノ拂戻ヲ爲スコトナ得

第四條 郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第五條 郵便官署ハ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトナ得

第六條 郵便爲替ニ關スル書類ニ付テハ印紙稅ヲ課セス

第七條 郵便爲替金額ノ制限及郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第八條 郵便爲替ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第九條 郵便爲替ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ除クノ外之ヲ還付セス

第十條 郵便爲替證書ノ有效期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ通常爲替及電信爲替ニ在リテハ九十日小爲替ニ在リテハ六十日トス
前項ノ期間ハ交通不便ノ地方ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ延長スルコトナ得

第十一條 郵便官署ニ於テ郵便爲替金ノ拂渡ヲ遲延シタル爲經過シタル日數ハ前條ノ有效期間ニ算入セス

第十二條 郵便爲替證書ノ有効期間ヲ經過シタルトキ又ハ郵便爲替證書ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ差出入又ハ受取人ニ於テ再度證書ノ交付又ハ爲替金ノ拂戻ヲ請求スルコトナ得

再度證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無效トス

第十三條 郵便替爲證書ノ有效期間滿了ノ日ヨリ三箇年間前條ノ請求ヲ爲ササルトキハ其ノ郵便爲替金ハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十四條 成規ノ手續ヲ經テ爲替金ヲ交付シタルトキハ正當ノ拂渡ヲ爲シタルモノト看做ス

第十五條 郵便官署ハ郵便爲替金拂渡ノ遲延ニ因リ生シタル損害ニ付賠償ノ責ニ任セス

第十六條 郵便爲替ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル

附則

第十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便條例第十二章及第二百四十二條ハ之ヲ廢止ス

第十八條 本法施行前ニ發行シタル郵便爲替證書及郵便小爲替證書ニ關シテハ本法ノ規定ヲ適用ス但シ本法施行前其ノ有效期間満了シタルモノニ在リテハ第十三條ノ期間ハ五箇年トシ其ノ有效期間満了セサルモノニ在リテハ第十條第一項ノ期間ハ郵便爲替證書ニ付テハ百二十日郵便小爲替證書ニ付テハ六十日トス

〔政府委員古市公威君演壇ニ登ル〕

○政府委員(古市公威君)此所ニ提出致シシマタ四法案、即チ郵便爲替法、郵便法、鐵道船舶郵便法、ソレニ電信法アリマスガ、此前ニ申シマシタ三法案、即チ郵便爲替法、郵便法、鐵道船舶郵便法ハ是ハ皆現行ノ郵便條例即チ明治十五年ニ發布ニ相成リマシタ郵便條例ノ改正ト申シテ宜シイノデアリマス、

其郵便條例ノ發布ニ相成リマシタ時分ヨリ今日ニ至リマシテ郵便事業ハ非常ニ發達致シマシタ、當時一年ノ郵便物數ガ九千九百萬餘即チ一億ニ達シマセヌモノガ、三十一年末ニ於テハ六億以上ニナリマシタヤウナ次第デアリマス、又鐵道モ其當時ニハ百七十哩程ヨリアリマセヌケレドモ今日ハ三千……今日即チ三十一年度ノ終ニ於テハ三千四百何哩ト云フモノニナリマシタ、ソレデヌモノガ、十五年頃ニハ人力ヲ以テ遞送致シマシタモノガ今日ハ多分ハ鐵道ニ依ルヤウニナリマシタ、爲替モ近頃ノ經濟界ノ進歩ト共ニ大ニ發達致シマシテ、既ニ昨年ノ十二月マデニハ殆ド全國ノ郵便局所デハ多分ハ鐵道ニ依ルヤウニナリマス、爾後支局ヲ設ケマスレバ共ニ爲替ヲ取扱フヤウニ致シマシタ、本年度ニ於テモ既ニ千餘爲替ヲ開始致シマシタ、殘テ居リマスル所ハ僅ニ十八箇所バカリデアリマスルガ、是モ三月頃マデニハ爲替ヲ開始致シマスル積リデアリマス、

又鐵道モ其當時ニハ百七十哩程ヨリアリマセヌケレドモ今日ハ三千……今日即チ三十一年度ノ終ニ於テハ三千四百何哩ト云フモノニナリマシタ、ソレデヌモノガ、三十一年末ニ於テハ六億以上ニナリマシタヤウナ次第デアリマス、又鐵道ニ依ルヤウニナリマシタ、爲替モ近頃ノ經濟界ノ進歩ト共ニ大ニ發達致シマシテ、既ニ昨年ノ十二月マデニハ殆ド全國ノ郵便局所デハ多分ハ鐵道ニ依ルヤウニナリマス、爾後支局ヲ設ケマスレバ共ニ爲替ヲ取扱フヤウニ致シマシテ益々爲替ノ便利ヲ地方ニ擴メル考デアリマス、斯ノ如ク此郵便及附屬事業ガ發達致シテ參リマシタニ附キマシテハ今日マデノ郵便條例デハ不備ヲ感シマスルノデ之ヲ整理致シマシテ一ノ郵便法ト云フモノヲ起案致シテ、サウシテ其複雜ヲ避ケル爲ニ其中ノ一種タル爲替ヲ之ヲ別法案ニ致シマシテ郵便爲替法案ト致シマシタ、ソレカラ鐵道船舶ニ依リテノ遞送ノコトハ是ハ現行ノ郵便條例ト、ソレカラ二十年ニ發布ニ相成リマシタ私設鐵道條例等ニ若干ノ箇條ガアリマスルガ、是モ至ッテ不完全デアリマスルニ依ッテ、之ガ爲ニ一ノ特別法ヲ設ケテ鐵道船舶郵便法トシテ茲

ニ提出致シタ次第デアリマス、其他ノ法律即チ電信法モ是モ近頃追々電信ガ發達致シマスルニ從ヒマシテ法文ノ不備ヲ感ジマスル、之ヲ改正シマシテ其命令ニ讓ルベキモノハ命令ニ讓リ、又權利問題拵デ規定スベキモノハ規定スルト致シマシテ、現行ノ電信條例ノ七十四箇條ノ中、二十六條ハ命令ニ讓リテ、十八條ハ除キマシテ、殘リノ三十條ト新タニ十七條ヲ加ヘマシテ此郵便モ電信法ヲ起案致シマシタ次第デアリマス、デスノ如ク相成リマスルカヲ御審議ノ上、御協賛ヲ請ヒマス

○名村泰藏君(チヨット)ト事御尋シタウゴザイマス、郵便爲替法ノ第四條ニ「郵便爲替ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモト看做ス」能力者ノ爲シタルモノト看做スト云フノハドウ云フノカ其主意ナチヨット……

〔政府委員久米金彌君演壇ニ登ル〕

○政府委員(久米金彌君)郵便爲替法ノ第四條ニ附イテノ御尋ト思ヒマスガ〔名村泰藏君「能力者ト云フノダケ」ト述フ〕

是ハ大體、民法ノ上デ見マスレバ無能力者ノシタコトハ效ヲ持タヌト云フコトニナッテ居リマス、郵便ナリ郵便爲替ナリテ扱フ上ニ附キマシテ、能力者デアルカ、無能力者デアルカト云フコトヲ判別致シマシテ、其結果ニ依ッテ或ハ有效デアル無效デアルト云フコトヲ別ケテ參リマスルノハ、頗ル事務ノ取扱ノ上カラ申シマシテモ煩雜デゴザマスルシ、尙又實際ノ上カラ申シマシテモ郵便ヲ賴ミニ來ル乃至爲替ヲ賴ミニ來ルノニモ無能力者ノ子供ガ來タリスルコトガ段々アルコトデアッテ、從前デモ實際扱ウテ來マシタシ、子供ガ賴ミニ參リマスレバソレノ賴ミニ應ジテ扱フテヤルト云フコトニナッテ居リマスルノデ、併シ矢張リ無能力者ノシタ場合モ恰モ能力者ノシタモノト同ジヤウニ見テ居リマス、ソコデ民法ニモ既ニ其ヤウニ致シ、ソレニテ其疑ヲ避ケムガ爲ニ特ニ無能力者ノシタ場合モ能力者ノシタモノト同ジヤウニ見ルト云フコトニシテ疑問ヲ避ケタ譯デアリマス

○議長(公爵近衛篤磨君)別段御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス……此右四案ハ關聯ノモノデアリマスルカラ共ニ議事ニ上セマス

電信法案

候也

明治三十三年二月三日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤麿殿

電信法

第一條 電信及電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲タル電信又ハ電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ私設スルコトヲ得

一 邸宅内若ハ一構内ニ於テ専用ニ供スル爲施設スルモノ

二 鐵道業其ノ他電信電話ノ専用ヲ必要トスル事業ノ爲施設スルモノ

三 公共團體ノ事務執行ノ爲一市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ公署相互間又ハ一郡市區内ニ於テ公署ト第一次監督官廳トノ間ニ施設

四 電報送受ノ目的ヲ以テ一人ノ専用ニ供スル爲電信官署トノ間ニ施設スルモノ

五 市區町村内若ハ鄰接市區町村間ニ於テ又ハ電信電話ノ連絡ナク且第四號ニ依ルヲ不適當トスル市區町村間ニ於テ一人又ハ一營業ノ專用ニ供スル爲施設スルモノ

第三條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ニ依リ施設シタル電信又ハ電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ電信又ハ電話ニ依ル通信ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第五條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ於テ之ヲ停止スルコトヲ得

第六條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用車馬等ハ道路ニ障礙アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ナキ宅地田畠其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第七條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ電信又ハ電話ノ工夫配達人若ハ吏員ヨリ助力ヲ求

メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第八條 職務執行中ノ電信又ハ電話ノ工夫配達人及配達用舟車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

第九條 政府ハ電信又ハ電話ノ用ニ供スル爲鐵道用地及停車場建物ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ建物ノ建築又ハ改築ヲ命スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十條 政府カ鐵道用地内ニ電信線又ハ電話線ヲ施設シタルトキハ使用料ヲ支給セス

第十一條 電信若ハ電話専用ノ物件又ハ現ニ其ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

前項専用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

第十二條 電信又ハ電話取扱ニ關シ電信官署又ハ電話官署ニ對シテ無能力者爲ノシタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十三條 電信ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十四條 電報ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り發信人ノ請求ニ因リ其ノ送達ヲ停止スルコトヲ得

第十五條 宛所ニ配達シ又ハ受信人ニ交付シ得サル電報ハ之ヲ公示ス其ノ公示ノ日ヨリ三十日間ニ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ棄却ス

第十六條 電信官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ發信人ニ對シ其ノ電報ニ用キタル祕辭隱語ノ説明ヲ求ムルコトヲ得發信人若其ノ説明ヲ拒ミタルハキハ其ノ電報ノ取扱ヲ拒絶ス

第十七條 電信又ハ電話ニ關スル料金及電信又ハ電話ニ依ル通信ノ取扱ニ必要ナル制限ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十八條 電信又ハ電話ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第十九條 發信人ニ於テ前納スヘキ電信ニ關スル料ニ不足アルトキハ發信人ヨリ其ノ不足額ノ二倍ノ料金ヲ徵收ス

第二十條 電信又ハ電話ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ

六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十一條 電信又ハ電話ニ關スル料金ノ不納金額ハ電信官署又ハ電話官署ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項不納稅金額ニ付電信官署又ハ電話官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス
第二十二條 電信又ハ電話ニ依ル通信ニシテ電信、電話及郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトナ得

第二十三條 電信又ハ電話ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

第二十四條 電信又ハ電話ノ取扱ニ關シテハ政府ハ損害賠償ノ責ニ任セス

第二十五條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル電信官署又ハ電話官署ニ對シ其ノ事實アリタル日ヨリ二箇月間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第二十六條 電信官署若ハ電話官署ノ賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトナ得

第二十七條 権利ナクシテ電信若ハ電話ヲ私設シタル者又ハ權利ヲ失ヒタル後主務官署ノ指定シタル期間内ニ私設ノ電信若ハ電話ヲ撤去セサル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ電信線又ハ電話線及電信又ハ電話ノ機器ヲ沒收ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ電信又ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第一項ノ電信又ハ電話ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第三條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外私設ノ電信若ハ電話ヲ他人ノ用ニ供シタル者又ハ其ノ私設者ニアラスシデ之ヲ使用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ電信若ハ電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第九條第一項ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ用地、建物ノ使用ヲ拒ミ若ハ建物ノ建築改築ヲ爲ササル者ハ五圓以上五百圓以

下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第六條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第七條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第八條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ理由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十二條 不正ノ手段ヲ以テ電信又ハ電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ
前項ノ場合ニ於テ電信爲替ニ要スヘキ電報ニ係ルトキハ輕懲役ニ處ス
電信事務ニ從事スル者前二項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ

第三十四條 電信又ハ電話ノ事務ニ從事スル者電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル電信又ハ電話ノ用紙ニ貼用シタル郵便切手ヲ剝脱シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シテハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第三十五條 電信官署ノ取扱中ニ係ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知リテ之ヲ受取リタル者又ハ其ノ傳送配達ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

電信事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ
第三十六條 電信若ハ電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ其ノ通信ノ取扱ヲ拒絶シ又ハ其ノ傳送ヲ遲延セシメタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 電信線又ハ電話線其ノ他電信又ハ電話ノ機器建造物ヲ毀損シ若ハ通信ヲ障碍シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下

ノ罰金ニ附加ス
過失ニ因リ通信ナ障礙シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 電信線若ハ電話線ノ建築修理又ハ線路ノ巡視測量ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 電信、電話ノ線條若ハ其ノ支持物ニ物品ヲ懸ケ若ハ擲チ又ハ之ニ動物若ハ舟筏ヲ繫キ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ科料ニ處ス

電信又ハ電話線路ノ測量標ヲ毀棄汚穢シタル者亦同シ

第四十條 主務官署ノ指定シタル水底電信線路若ハ水底電話線路ノ區域内ニ於テ船舶ヲ繫留シ又ハ漁業採藻ヲ爲シ若ハ土砂ヲ掘鑿シ又ハ水底電信線若ハ水底電話線ノ號標ニ舟筏ヲ繫キ又ハ其ノ號標ヲ毀棄シタル者ハ

五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

水底電信線若ハ水底電話線ノ布設若ハ修理ノ爲其ノ位置ヲ示スヘキ浮標又ハ其ノ布設若ハ修理ニ從事スル船舶ヨリ主務官署ノ指定シタル距離以内ニ於テ前項ノ所爲ヲ爲シ若ハ航行シタル者亦同シ

第四十一條 第三十二條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第四十二條 前數條ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役又ハ理事ニ之ヲ適用ス

第四十三條 公衆通信又ハ第三條第一項ニ依リ現ニ軍事通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第九條ヲ除クノ外本法中政府ノ施設ニ係ル電信又ハ電話ニ關スル規定ヲ準用ス

第四十四條 電信又ハ電話ニ非スト雖通報信號ヲ爲スモノニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトナ得

第四十五條 帝國外國間ニ於ケル電信ニ關シ別ニ法令條約又ハ特許ノ條款ニ明文アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

附 則

第四十六條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

電信條例ハ之ヲ廢止ス

第四十七條 本法施行前電信條例ニ依リ電信又ハ電話私設ノ許可ヲ得タル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ更ニ許可ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

郵便法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十三年二月三日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨殿

郵便法

第一條 郵便ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 何人ト雖信書ノ送達ヲ營業ト爲スコトヲ得ス

運送營業者及其ノ使用人ハ其ノ運送方法ニ依リ他人ノ爲ニ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ス但シ貨物ニ添附スル無封ノ添狀又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラス

ス

第三條 運送營業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ運送方法ニ依リ郵便物ノ運送ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ相當ノ運送料金ヲ支給ス

第四條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等ハ道路ニ障碍アリテ通行シ難キ場合ニ於テ牆壁又ハ欄柵ナキ宅地田畠其ノ他ノ場所ヲ通行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ被害者ノ請求ニ因リ其ノ損害ノ賠償ヲ爲スヘシ

第五條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等事故ニ遭遇シタル場合ニ於テ郵便遞送人郵便集配人又ハ郵便吏員ヨリ助力ヲ求メラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ郵便官署ハ助力者ノ請求ニ因リ相當ノ報酬ヲ爲スヘシ

第六條 職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人及郵便專用車馬等ニ對シテハ渡津、運河、道路、橋梁其ノ他ノ場所ニ於ケル通行錢ヲ請求スルコトヲ得ス

職務執行中ノ郵便遞送人郵便集配人ハ何時ニテモ渡津ノ出船ヲ求ムルコトヲ得ス

第七條 郵便專用ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

郵便專用ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受クルコトナシ

郵便物及其ノ取扱ニ必要ナル物件ハ海損ヲ分擔セス

第八條 郵便官署ハ郵便物ノ遞送中又ハ其ノ發送ノ準備完了ノ後ニ限り其ノ差押ヲ拒ムコトヲ得

第九條 郵便物検疫ヲ受クヘキ場合ニ於テハ他ノ物件ニ先チテ直ニ検疫ヲ受ク

第十條 郵便取扱ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタルモノト看做ス

第十一條 郵便官署ハ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ノ受取人ノ眞偽ヲ調査スル爲受取人ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ宛所ニ配達ス

第十三條 郵便物ハ命令ヲ以テ定ムル場合ニ限り差出人ノ請求ニ因リ之ヲ還付スルコトヲ得

第十四條 宛所ニ配達シ又ハ受取人ニ交付スルコト能ハサル郵便物ハ差出人ニ還付ス其ノ差出人ニ還付スルコト能ハサルモノハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ於テ之ヲ開披スルコトヲ得

第十五條 前條ニ依リ開披シタル郵便物ニシテ尙配達還付ヲ爲スコト能ハサルモノ及郵便ニ依ル取立金ニシテ拂渡ヲ爲スコト能ハサルモノハ之ヲ公示ス

郵便物ニ封入シタル物件ニシテ有價物ニ非サルモノハ其ノ公示ノ日ヨリ六箇月内ニ交付ヲ請求スル者ナキトキハ之ヲ棄却シ其ノ有價物ニシテ滅失若ハ毀損ノ虞アルモノ又ハ其ノ保管ニ過分ノ費用ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ賣却シ其ノ代金ヲ保管ス但シ賣却ニ要スル經費ハ直ニ賣却代金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

有價物、賣却代金及郵便ニ依ル取立金ハ公示ノ日ヨリ二箇年間交付ヲ請求スル者ナキトキハ國庫ノ所有ニ歸ス

第十六條 郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ其ノ取扱ヲ拒絶ス

第十七條 郵便物ハ通常郵便物及小包郵便物トス

第十八條 通常郵便物ノ種類及料金ハ左ノ如シ

第一種 書 狀

重量四匁又ハ其ノ端數每二

第二種 郵便葉書

重量一匁又ハ其ノ端數每二

金三錢

第三種 ル定期刊行物

一

金一錢

第四條

書籍、印刷物、業務用
商品見本及雑形、博物
學上ノ標本

第五種 農產物種子

重量三十匁又ハ其ノ端數每二
金一錢

前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

異種ノ郵便物ヲ合裝シタルモノハ其ノ種類中ノ最高料金ヲ納付スヘキ郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス但シ第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

郵便葉書ノ表面又ハ第三種乃至第五種ノ郵便物ニ通信文ヲ記載シタルモノハ第一郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第十九條 小包郵便物ノ料金並郵便物ノ特殊取扱ニ關スル料金ハ命令ノ定期所ニ依ル

第二十條 書狀ハ小包郵便物ト爲シ又ハ小包郵便物ニ合裝スコトヲ得ス但シ無封ノ添書又ハ送狀ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 第三種郵便物ト爲スヘキ定期刊行物ハ主務官署ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第二十二條 郵便禁制品ノ種類及郵便物ノ容積、重量、包装等ニ關スル制限ハ命令ノ定期所ニ依ル

第二十三條 受取人ハ郵便料ヲ完納シタル郵便物ノ受取ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 郵便ニ關スル既納及過納ノ料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ還付セス

第二十五條 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便料未納又ハ不足ノ郵便物ハ受取人其ノ不納額二倍ノ料金ヲ納付シテ之ヲ受取ルコトヲ得其ノ納付ヲ拒ミタルトキハ差出人ニ還付シ差出人ヨリ之ヲ徵收ス

第二十六條 郵便ニ關スル料金納付ノ義務ハ其ノ納付スヘキ日ヨリ六箇月内ニ納付ノ告知ヲ受ケサルニ因リテ消滅ス

第二十七條 郵便ニ關スル料金ノ不納金額ハ郵便官署ニ於テ國稅滞納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ不納金額ニ付郵便官署ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス
一號一箇重量二十五匁又ハ其ノ端數每二
二號又ハ二箇以上一束重量二十五匁又ハ其ノ端數每二

無料ト爲スコトナ得

第二十九條 郵便ニ關スル料金ハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ以テ納付スヘシ

第三十條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ政府之ヲ發行ス第三十一條 郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ノ汚斑毀損シタルモノハ其ノ效用ヲ失フ

第三十二條 成規ノ手續ヲ經テ郵便物又ハ郵便ニ依ル取立金ヲ交付シタルトキハ正當ノ交付ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 成規ニ依リ差出シタル郵便物ノ取扱ニ關シ郵便官署ハ左ノ場合ニ限り其ノ損害ヲ賠償ス

一 書留郵便物ヲ亡失シタルトキ

二 小包郵便物若ハ價格表記郵便物ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

三 郵便ニ依ル取立金ノ證券ヲ亡失シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシメタルトキ」賠償金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十四條 郵便物交付ノ際外部ニ破損ノ痕跡ナク且重量ニ變易ナキトキハ損害ナキモノト看做ス

第三十五條 第三十三條ノ場合ト雖左ノ事項ニ該當スルトキハ損害賠償ノ限ニ在ラス

一 差出人又ハ受取人ノ過失ニ因リタルトキ

二 不可抗力ニ因リタルトキ

三 其ノ郵便物ノ性質又ハ瑕疵ニ因リタルトキ

第三十六條 郵便物ノ差出人又ハ受取人ハ其ノ郵便物ニ損害アリト認ムルトキハ其ノ受取ヲ拒ムコトナ得但シ郵便物受取ノ後ハ異議ヲ申立ツルコトナ得ス

第三十七條 第三十三條ニ依ル損害賠償ハ差出人又ハ其ノ承諾ヲ得タル受取人之ヲ請求スルコトナ得

第三十八條 本法ニ依ル損害賠償又ハ報酬ノ請求權ハ主務大臣ノ指定シタル郵便官署ニ對シ左ノ期間内之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

一 第四條ニ依ル賠償及第五條ニ依ル報酬ハ其ノ事實アリタル日ヨリ二箇月

二 第三十三條ニ依ル賠償ハ郵便物差出ノ日ヨリ二箇年

第三十九條 郵便官署ノ損害賠償又ハ報酬ニ關スル決定ニ對シ不服アル者

ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月以内ニ民事訴訟ヲ提起スルコトナ得タルトキハ之ヲ其ノ賠償受領者ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テ賠償受領者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以内ニ賠償金ノ全部又ハ一部ヲ返付シテ其ノ郵便物ノ交付ヲ請求スルコトナ得

第四十一條 第二條ニ違反シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ場合ニ於テ收得シタル金圓物品ハ之ヲ沒收シ既ニ消費又ハ讓渡シタルモノハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第四十二條 第三條ニ違反シタル者八十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第四條ノ場合ニ於テ通行ヲ拒ミ又ハ第五條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ助力ヲ拒ミ又ハ第六條ノ場合ニ於テ通行錢ヲ強要シ若ハ正當ノ事由ナクシテ渡津ノ出船ヲ拒ミ又ハ第二十三條ニ違反シテ郵便物ノ受取ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第四十四條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル信書ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十五條 第二十條ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 郵便禁制品ヲ郵便物トシテ差出シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ其物件ヲ沒收ス

第四十七條 不正ノ手段ヲ以テ郵便ニ關スル料金ヲ免レ又ハ免レムトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加本條ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四十八條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ偽造變造シ又ハ其ノ情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ハ之ヲ沒收ス

第四十九條 帝國政府及郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ再ヒ使用シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ニ使用

シタル郵便切手其ノ他郵便料金ヲ表彰スヘキ證票ヲ剥脱切取シタルトキ

ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ未タ消印ヲ爲ササルモノニ關シ
テハ刑法竊盜ノ罪ニ照シテ處斷ス

第五十一條 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取
シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第五十二條 郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、
毀損、隠匿若ハ拋棄シタル者又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シ若ハ情ヲ知
テ之ヲ受取リタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

郵便事務ニ從事スル者前項ノ所爲アリタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ
第五十三條 正當ノ事由ナクシテ郵便物ノ取扱ヲ拒絶シ若ハ其ノ送達ヲ遲
延セシメタル者又ハ重大ナル過失ニ因リ郵便物ヲ失ヒタル者ハ四圓以上
四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 郵便専用ノ物件其ノ他現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ヲ破壊損傷
シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第五十五條 第四十七條ヲ除クノ外前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシ
テ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第五十六條 郵便物ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルモノハ各其ノ規定ニ依ル
附 則
第五十七條 本法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
郵便條例中第十二章及第二百四十二條以外ノ條項小包郵便法及郵便聯合
國郵便切手類保護法ハ之ヲ廢止ス
第五十八條 本法施行前ニ差出シタル郵便物ニ關シテハ郵便條例及小包郵
便法ヲ適用ス

テ運送業者ヲ爲ス者ヲ謂フ

第二條 鐵道運送業者ハ郵便取扱ノ爲郵便官署ノ要求アルトキハ鐵道用地
及停車場建物ノ一部ヲ供シ又ハ建物ノ建築若ハ改築ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テ土地建物ノ使用料及建築改築ノ費用ハ郵便官署之ヲ支
給ス

第三條 鐵道運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ定期列車毎ニ郵便車ト
シテ列車定數ノ總容積ノ五分ノ一迄ハ其ノ列車ノ一部ヲ供給シ又ハ郵便
官署ノ交付ニ係ル同一容積以内ノ郵便車ヲ聯結スヘシ
船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求アルトキハ其ノ船舶ニ相當ノ郵便船室ヲ
供給スヘシ

第四條 郵便車ノ構造ハ通常客車ト同一タルコトヲ要ス

第五條 郵便車又ハ郵便船室ニハ郵便物郵便取扱員及其ノ監視員ノ外搭載
スルコトヲ得ス

第六條 鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ハ郵便官署ノ要求ニ應シ郵便車又

ハ郵便船室ニ郵便物ノ取扱ニ必要ナル設備及維持ヲ爲スヘシ

鐵道運送業者ハ郵便官署ノ交付ニ係ル郵便車ヲ保管スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ設備維持及保管ニ要スル費用ハ郵便官署之ヲ支給ス

第七條 鐵道運送業者ハ列車仕立驛ニ於テ指定ノ郵便車ノ外臨時容積ノ増
加ヲ要シ又ハ臨時郵便車ノ聯結ヲ要スル爲其ノ列車出發時刻三十分前迄

ニ郵便官署ノ要求アルトキハ他ノ郵便車ヲ聯結シ又ハ通常客車ヲ其ノ代
用ニ供スヘシ

第八條 鐵道運送業者ハ郵便官署ニ於テ郵便車ニ依ラサル郵便物ノ運送ヲ
要求シタルトキハ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ
運送スヘシ

第九條 鐵道運送業者列車ノ發著時刻ヲ變更スルトキハ七日以前ニ之ヲ郵
便官署ニ報告スヘシ但シ天災其ノ他避クヘカラサル事故ノ爲發著時刻ノ
變更ヲ決定シタルトキハ直ニ報告スヘシ

第十條 郵便車ノ使用料金ハ左ノ割合ニ依ル

三百方立尺迄 一哩每ニ 金一錢八厘以内
五百立方尺迄 一哩每ニ 金三錢五厘以内
七百立方尺迄 一哩每ニ 金五錢六厘以内
千立方尺迄 一哩每ニ 金九錢以内

鐵道船舶郵便法
貴族院議長公爵近衛篤磨殿

鐵道船舶郵便法

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也
明治三十三年二月三日 衆議院議長片岡健吉

明治三十三年二月三日 貴族院議長公爵近衛篤磨殿

鐵道船舶郵便法

第一條 本法ニ於テ鐵道運送業者ト稱スルハ私設鐵道條例ニ依リ鐵道ヲ以
テ運送營業ヲ爲ス者ヲ謂ヒ船舶運送業者ト稱スルハ商法ニ依リ船舶ヲ以

千立方尺ヲ超過シタルトキハ其ノ全容積ニ對シ百立方尺迄ニ付一哩每

ニ金一錢以内
郵便車ノ容積ハ各列車ニ於ケル郵便車總容積ヲ以テ之ヲ算定ス其ノ容積

ノ算定方法ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

郵便物ヲ旅客列車ニ依リ運送スル貨物ト同一ノ方法ヲ以テ運送セシムル

トキハ其ノ運送料金ハ其ノ鐵道運送業者ノ定メタル普通貨物運賃ノ最低

額ノ半額以内トス
郵便官署ヨリ郵便車ヲ交付シタル場合ニ於テ鐵道運送業者ニ支給スヘキ

金額ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶運送業者ハ船舶ニ搭載シタル郵便物ヲ其ノ目的地ニ於テ他

ノ貨物ニ先チ陸揚スヘシ天災事變ノ爲航海ノ途中ニ於テ積替若ハ陸揚ス

ルトキ亦同シ

第十二條 船舶運送業者ニ交付スヘキ運送料金ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 郵便物搭載列車天災事變ノ爲其ノ進行ヲ停止シタルトキ又ハ郵

便物搭載船舶航行中天災事變ニ因リ郵便物ヲ陸揚シタルトキハ鐵道運送

業者又ハ船舶運送業者ハ郵便取扱員ノ在ラサル場合ニ限り直ニ該郵便物

ヲ附近郵便官署ニ送達スヘシ其ノ送達ニ要スル費用ハ之ヲ支給ス

第十四條 第三條ノ要求ニ應セサル者又ハ正當ノ理由ナクシテ第二條若ハ

第七條ノ要求ニ應セサル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第一項及第二項ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ

第八條ノ要求ニ應セサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第五條

ニ違反シタル鐵道運送業者及船舶運送業者亦同シ

第十六條 第十三條ニ依ル送達ヲ爲ササル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第十七條 過失ニ依リ運送中ニ係ル郵便物ヲ亡失シ又ハ之ヲ毀損シタルト

キハ鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ナ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第九條又ハ第十一條ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

業者法人ナルトキハ其ノ業務執行社員又ハ取締役ヲ處罰ス

第二十條 軌道條例ニ依リ運送營業ヲ爲ス者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ規定ヲ準用スルコトナ得

第二十一條 鐵道又ハ航路若ハ船舶ニ關シ政府ヨリ補助ヲ受ケ若ハ受ケタ

ル鐵道運送業者又ハ船舶運送業者ニ對シ特別ノ命令アルトキハ其ノ命令
ニ依ル

本法ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

○議長(公爵近衛篤磨君) 此四案ノ委員ハ同一委員デ宜カラウト思ヒマス、
御異議ハゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) サウシテ議長ニ於テ指名シテ宜シウゴザイマスカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 衆議院議員選舉法改正法律案、政府提出、衆議院
送付、第一讀會

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付

候也

明治三十三年一月三十一日 衆議院議長片岡健吉

第一章 選舉ニ關スル區域
衆議院議員選舉法

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區

ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトナ得

前項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キトキハ命令ヲ以テ

特別ノ規定ヲ設クルコトナ得

第三條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町

村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

第四條 市町村長ハ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス
第五條 一選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス
一選舉區ニシテ數郡ニ涉ルトキハ地方長官ハ其ノ郡長ノ一人ヲ命シ選舉

長タラシムヘシ

第六條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職

ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第七條 左ノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス

一 帝國臣民タル男子ニシテ成年ニ達シタル者

二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ府縣内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租五圓以上又ハ滿二年以上地租以外ノ直接國稅五圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トメ通シテ五圓以上ヲ納メ仍引續キナムル者

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

第八條 前條ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルコトナシ

第九條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第十條 左ニ掲クル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者及準禁治產者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

三 剝奪公權者及停止公權者

四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者

第十一條 華族ノ戸主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍々人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ

第十二條 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教員ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

政府ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス

第十三條 選舉事務ニ直接ノ關係アル官吏、吏員ハ其ノ選舉區内ニ於テ被

選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ
地方ノ官吏、吏員ハ其ノ管轄區域内ニ於テ亦前項ニ同シ

第十四條 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計檢

查官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十五條 官吏ハ勅令ニ規定アルモノヲ除クノ外議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十六條 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十七條 町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調查シ選舉人名簿正副二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ選舉

長ニ送付スヘシ

選舉長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ副本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十八條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ十月五日迄ニ其ノ住所地ノ市町

村長ニ届出ツヘシ其ノ期日迄ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第十九條 選舉長、町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其ノ廳又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ

第二十條 選舉人選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ選舉長ニ申立ツルコトヲ得

第二十一條 選舉人正當ノ事故ニ因リ第十八條ノ手續ヲ爲スコトヲ得スシテ選舉人名簿ニ登錄セラレサルトキ亦前條ノ例ニ依ル

第二十二條 縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 選舉長ニ於テ第二十條第二十一條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修正シ其ノ

由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正

當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知スヘシ
前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ選舉長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村
長ニ通知スヘシ

第二十四條 前條選舉長ノ決定ニ不服アル申立人及關係人ハ選舉長ヲ被告
トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルコト
ナ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上
告スルコトナ得

第二十五條 町村長ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄ノ間ニ其ノ管理ニ屬
スル選舉人名簿ヲ選舉長ニ送付スヘシ

前項名簿ノ送付ヲ受ケタル選舉長ハ之ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修
正ヲ加ヘ十二月二十日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

第二十六條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決
ニ依リ修正スヘキモノハ選舉長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示ス
ヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ選舉長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村
長ニ通知シ副本ヲ修正セシムヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スヘ
シ

前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縱覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命
令ノ定ムル所ニ依ル

第四章 選舉、投票及投票所

第二十七條 總選舉ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ少くトモ三十日前ニ之ヲ
公布ス

第二十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十九條 投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管
理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十條 投票管理者ハ選舉ノ期日ヨリ少くトモ五日前ニ投票所ヲ其ノ
投票區内ニ告示スヘシ

第三十一條 投票管理者ハ各投票區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上五名

以下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少くトモ三日前ニ之ヲ本人ニ
通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十二條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第三十三條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經
テ投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト
能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者
ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十四條 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第三十五條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載シ次
ニ自己ノ氏名ヲ記載シ捺印シテ投函スヘシ

選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ投票管理者
ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ
投票明細書ニ記載スヘシ

二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第三十六條 選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ選
舉人名簿ニ登錄セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル

者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシムヘシ

第三十七條 選舉人名簿ニ登錄セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投票
ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定ス
ヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲
サシムヘシ

第一項ニ掲タル者ニ於テ異議アル選舉人ニ對シテモ亦前項ニ同シ

第三十九條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由
ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ノ投票結了スルヲ待テ
投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

第四十條 投票管理者ハ投票錄ヲ作リ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立
會人ト共ニ之ヲ署名スヘシ

第四十一條 町村ニ於テハ投票管理者ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票

ノ翌日迄ニ投票函、投票錄及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第四十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致ス

ルコト能ハサル情況アルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ

選舉會ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票錄及選舉人名簿ヲ送致セシムルコト

ヲ得

第四十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サ

ルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ地方長官ニ其

ノ由ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行

ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ投票區内ニ告示セシムヘシ

第五章 投票所取締

第四十四條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警

察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十五條 選舉人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權

ヲ有スル者及警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十六條 投票所ニ於テ演説討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ

協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者

ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

第四十七條 前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投

票ヲ爲スコトヲ得但シ投票所閉鎖後ハ此ノ限ニ在ラス

第六章 選舉會

第四十八條 選舉會ハ選舉管理ノ郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ選舉

長ノ指定シタル場合ニ之ヲ開ク

第四十九條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所ヲ告示スヘシ

第五十條 選舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ

以テ選舉立會人三名以上七名以下ヲ定メ選舉會ニ立會ハシムヘシ但シ市

ニ於テハ投票立會人ヲ以テ選舉立會人トス

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十一條 選舉長ハ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日、市ニ於テ

ハ投票ノ翌日選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總

數トヲ計算スヘシ

第五十二條 前條ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第三十八條第二項及

第三項ノ投票ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

第五十三條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十四條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第五十五條 投票ニ記載ノ人員其ノ選舉スヘキ定數ニ過キ又ハ不足アルモ

其ノ投票ヲ無効トセス其ノ定數ニ過タルモノハ末尾ニ記載シタル者ヲ順

次ニ除却スヘシ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス但シ連名投票ニシテ第二及第三ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミヲ無効トス

一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四 被選舉人若ハ選舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ

五 選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

六 投票ヲ行フ權ナキ者ノ投票

七 第三十四條第一項ニ規定シタル外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、

職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 投票ハ有效無効ヲ區別シ議員ノ任期間選舉長ニ於テ之ヲ保存

スヘシ

第五十七條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立會人

ト共ニ署名シ投票錄ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第五十八條 第四十三條ノ規定ハ但書ヲ除キ選舉會ニ之ヲ準用ス

第五十九條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第七章 當選人

第六十條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

前項ノ當選人ニシテ當選證書付與前ニ於テ其ノ當選ヲ辭シ若ハ死亡シタルトキ又ハ當選證書付與ノ前後ヲ問ハス選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セ

效トナリタルトキハ得票ノ順位ニ依リ更ニ當選人ヲ定ム

前項ノ場合ヲ除クノ外選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ必要ナルトキ

ハ本條ニ依リ更ニ當選人ヲ定ム

本條ニ依リ當選人ヲ定ムニ當リ得票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同

年月ナルトキハ抽籤シテ其ノ順位ヲ定ム

第六十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ之ヲ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ當選人ニ告知スヘシ

第六十二條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

第六十三條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六十四條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管内ニ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第六十五條 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選舉若ハ當選無効トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラ

レタル結果當選無効トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第八章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第六十七條 議員ノ關員ヲ生シタルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ命ニ依リ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

前項ノ補闕選舉ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

第六十八條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間 在任ス

第九章 選舉訴訟及當選訴訟

第六十九條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第七十條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ當選ノ結果ニ異動ナ及

ホスノ虞アル場合ニ限り裁判所ハ其ノ選舉ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

當選訴訟ニ於テモ其ノ選舉前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

第七十一條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ

被告トシ第六十四條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第七十二條 裁判所ニ於テ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第七十三條 裁判所ニ於テ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判シタルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第七十四條 原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ

原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徵ス

第十章 罰則

第七十五條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ第三十三條第二項ノ場合ニ於テ虛偽ノ宣言ヲ爲シタル者ハ十圓以上五十圓以下

ノ罰金ニ處ス

第七十六條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場、若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辦シ及其ノ代辦ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノ

ハ其ノ價ヲ追徴ス

第七十七條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ掲引シタル者

二 選舉人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ爲サシメタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ威逼シタル者

第七十八條 投票所ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票ニ關涉シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第七十九條 投票管理者、選舉長、立會人若ハ選舉監視者ニ暴行ヲ加ヘ又ハ選舉會場、若ハ投票所ヲ騒擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

多衆ヲ嘯聚シテ前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ輕禁獄ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ一月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第八十條 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ヲ脅迫シ又ハ選舉會場、投票所ヲ騒擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス犯罪者第八十一條ノ物件ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第八十一條 選舉人、議員候補者及選舉運動者ニシテ選舉ニ關シ銃砲、槍戰、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第八十二條 前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選舉會場、若ハ投票所ニ入りタル者ハ前條ノ例ニヨリ一等ヲ加フ

第八十三條 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組

ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用ヰ若ハ鍾鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ幟旗其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五百圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第七十八條乃至第八十三條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演説又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第八十五條 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演説又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第八十六條 選舉人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第八十七條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキハ百圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八十條第二項第八十一條及第八十二條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第八十九條 當選人其ノ選舉ニ關シ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第九十条 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス

第九十一条 本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時效ニ罹ル

第十一章 補則

第九十二条 選舉ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十三条 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラスヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第九十四条 町村ヲ市ト爲シタル場合ニ於テハ別表ヲ改正スル迄ノ間其ノ市ハ從前屬シタル郡ノ區域ニ包含スルモノト看做シ本法中町村及町村長ニ關スル規定ハ之ヲ市及市長ニ準用ス

第九十五条 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法ニ規定シタル町村長ノ職

務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ本法ニ規定シタル郡長ノ職務ハ島司之ヲ掌リ

其ノ島司ナキモノニ於テハ郡長ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ本法中市トアルハ區長、

市役所トアルハ區役所ニ該當ス其ノ例ニ依リ難キ場合又ハ特ニ必要ナル

事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトナ得

第九十六條 立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中

途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者、選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ中ヨ

リ立會人ヲ選任スヘシ

第九十七條 選舉人名簿ニ關スル訴訟選舉訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ

規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

第九十八條 本法ニ於ケル直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十九條 北海道及沖繩縣ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ

勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトナ得

第十二章 附則

第一百條 本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス但シ北海道小樽區、函館區、沖繩

縣ニ付テハ勅令ヲ以テ別ニ施行ノ期日ヲ定ム

第一百一條 本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付必要ナル選舉人名簿ノ調製

ニ限リ第十七條乃至第十九條第二十三條第二十五條第二十六條ノ期日及

期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトナ得但シ其ノ選舉人名簿ハ次年ノ

選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

別表

東京府	市	十四人
第一區	麹町	一人
第二區	赤谷	一人
第三區	麻布	一人
第四區	芝	一人
第五區	日本橋	一人
第六區	本所	一人
第七區	區	一人
第十七區	區	一人

第八區	深川區	一人
第九區	淺草區	一人
第十區	下谷區	一人
第十一區	神田區	一人
第十二區	本郷區	一人
第十三區	小石川區	一人
第十四區	牛込區	一人
第十五區	豊多摩郡	一人
第十六區	北豐島郡	一人
第十七區	南葛飾郡	一人

京都府	市	四人
第一區	上京區	六人
第二區	下京區	六人
第三區	右近	一人
第四區	左近	一人
第五區	中近	一人
第六區	南近	一人
第七區	北近	一人
第八區	東近	一人
第九區	西近	一人
第十區	南近	一人
第十一區	北近	一人
第十二區	南近	一人

大阪府	市	七九人
第一區	中	一人
第二區	北	一人
第三區	南	一人
第四區	桑田	一人
第五區	佐野	一人
第六區	鹿田	一人
第七區	井	一人
第八區	船北	一人
第九區	相模	一人
第十區	葛	一人
第十一區	愛	一人
第十二區	喜樂	一人
第十三區	治世	一人
第十四區	伊訓	一人
第十五區	野宕	一人
第十六區	右近	一人
第十七區	左近	一人

兵庫縣	市	三十五人
第一區	中	一人
第二區	高座郡	一人
第三區	甲斐郡	一人
第四區	足柄上郡	一人
第五區	足柄下郡	一人
第六區	高麗郡	一人
第七區	久井郡	一人
第八區	津井郡	一人
第九區	甲斐郡	一人
第十區	高麗郡	一人
第十一區	久井郡	一人
第十二區	高麗郡	一人
第十三區	久井郡	一人
第十四區	高麗郡	一人
第十五區	久井郡	一人
第十六區	高麗郡	一人
第十七區	高麗郡	一人

神奈川縣	市	二人
第一區	横濱市	一人
第二區	鎌倉郡	一人
第三區	都筑郡	一人
第四區	三浦郡	一人
第五區	高座郡	一人
第六區	久井郡	一人
第七區	高座郡	一人
第八區	久井郡	一人
第九區	高座郡	一人
第十區	高座郡	一人
第十一區	高座郡	一人
第十二區	高座郡	一人
第十三區	高座郡	一人
第十四區	高座郡	一人
第十五區	高座郡	一人
第十六區	高座郡	一人
第十七區	高座郡	一人

第八區	北河內郡	一人
第九區	中河內郡	一人
第十區	南河內郡	一人
第十一區	泉北郡	一人
第十二區	泉南郡	一人
第十三區	伊豆七島郡	一人
第十四區	南多摩郡	一人
第十五區	西多摩郡	一人
第十六區	北多摩郡	一人
第十七區	伊豆七島郡	一人

新潟縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區	第十六區	第十七區	第十八區	第十九區
島郡市	一 六 人 人 人	北 蒲 原 郡 市	東 蒲 原 郡 市	西 蒲 原 郡 市	新 潟 縣 市	下 岐 縣	長 崎 縣 市	朝 津 縣 市	美 來 縣 市	赤 石 崎 郡 市	佐 原 郡 市	出 城 郡 市	宇 都 郡 市	押 栗 郡 市	神 崎 郡 市	磨 郡 市	保 穗 郡 市	摩 郡 市	新 潟 縣 市

群馬縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區	第十六區	第十七區	第十八區	第十九區
郡市	八 一 人 人	佐 渡 郡 市	北 葛 飾 郡 市	北 埼 玉 郡 市	大 兒 玉 郡 市	北 埼 玉 郡 市													

栃木縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區	第十六區	第十七區	第十八區	第十九區			
郡市	八 一 人 人	鹽 芳 河 谷 賀 內 都 宮 人 人	宇 都 宮 人 人	北 稻 敷 治 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	新 筑 治 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	猿 敷 治 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	結 治 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	真 治 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	那 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	久 行 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	多 鹿 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	行 鹿 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	鹿 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市	水 波 島 城 壁 珂 慈 賀 方 島 城 城 市								

三重縣	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區	第十六區	第十七區	第十八區	第十九區		
郡市	九 二 人 人	吉 野 智 市 郡 郡	宇 葛 城 市 郡 郡	磯 陀 城 駒 城 市 郡 郡	生 駒 城 駒 城 市 郡 郡	山 添 駒 城 駒 城 市 郡 郡	奈 良 駒 城 駒 城 市 郡 郡	那 良 駒 城 駒 城 市 郡 郡	安 房 駒 城 駒 城 市 郡 郡	千 葉 駒 城 駒 城 市 郡 郡											

愛知縣
市
郡
十四人

第九區	第八區	第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	愛知縣 市 郡 十四人
引濱	磐周	小榛	志駿	庵富	安倍	靜岡	南北東	海中	葉丹西
佐名	田知	笠原	太原	原士	倍岡	渥美	設設加	知碧	春羽
郡	郡	郡	郡	郡	郡	十一人	樂樂茂	海多	日井
						十二人	茂	島東	郡

二人	二人	一人	二人	二人	一人	二人	二人						
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

山梨縣
市
郡
五人

第四區	第三區	第二區	第一區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	山梨縣 市 郡 五人
羽養	安不	稻岐	坂	大愛	神蒲	甲野	栗高	滋大	田賀方
島老津	律八	破葉	東淺香	上知	崎生	賀洲	太賀	島津	茂市
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
			九一						
			八人						

二人

第五區
第六區
第七區
第八區
第九區

第二區	第一區	宮城縣 市 郡	第十一區	第十區	第九區	第八區	第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	長野縣 市 郡		
柴宮	名仙	八一	下諫	上北	南北	南北	東西	埴小	上下	更級	上水	長野	吉益	惠王	可加	郡山武
田城取	臺	人	伊那	伊那	佐久	安安	筑摩	科縣	高高	水井	水井	市	城田野	那岐	兒茂	上縣儀
郡	郡		郡	郡	郡	郡	郡	郡	井內	級	市		郡	郡	郡	郡

二人

第三區
第四區
第五區
第六區
第七區

第二區	第一區	岩手縣 市 郡	第十一區	第十區	第九區	第八區	第七區	第六區	第五區	第四區	第三區	第二區	第一區	福島縣 市 郡		
紫二岩	盛	七一	相	雙石	河耶	大北	南西	東石	岩田	安安	伊信	若	牡桃	本登	栗遠	玉志加黑豆刈伊
波戶手岡	岡	人	馬	葉城	沼麻	津	津	河川	川瀬	村積	達達	夫松	鹿生	吉米	原田造田美川	理田具
郡	郡		郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡		郡	郡	郡	郡

一人

第三區	第四區	第五區	第六區	青森縣
下閉伊郡	稗貫郡	上閉伊郡	江津輕郡	九戶郡
伊賀郡	仙刺郡	賀澤郡	磐井郡	伊郡
郡	郡	郡	郡	郡
市	市	市	市	青森市
人	人	人	人	人
第一區	第二區	第三區	第四區	第五區
山形縣	山形縣	山形縣	山形縣	山形縣
郡市	郡市	郡市	郡市	郡市
第九區	第八區	第七區	第六區	第五區
東山郡	田川郡	西田郡	東田郡	最上郡
村山郡	川郡	海郡	田郡	北山村
郡	郡	郡	郡	村
市	市	市	市	市
人	人	人	人	人

石川縣	福井縣	秋田縣
第七區 第六區 第五區 第四區 第三區 第二區 第一區	第七區 第六區 第五區 第四區 第三區 第二區 第一區	第七區 第六區 第五區 第四區 第三區 第二區 第一區
郡市	郡市	郡市
鹿羽河江能石金 島昨北沿美川澤 郡郡郡郡郡市	大遠三南敦丹今坂大吉足 飯敷方條賀生立井野田羽井 郡郡郡郡郡市	雄平由仙川鹿北 勝利北邊角秋田本 郡郡郡郡郡市
七一人	六一 人	秋田市

和歌山縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	山口縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區		
西牟婁郡	市	日高郡	市	有田郡	市	伊賀郡	市	那珂郡	市	海草郡	市	熊郡	市	大郡	市	阿佐郡	市	厚美郡	市	吉敷郡	市	赤間關郡	市	波津郡	市	濃浦郡	市	武波郡	市	狹禰郡	市	郡	市

德島縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	香川縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	愛媛縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區		
東牟婁郡	市	一人	六人	一人	一人	一人	一人	高松市	市	勝浦郡	市	東部郡	市	海部郡	市	名麻板郡	市	勝馬郡	市	植西郡	市	東賀郡	市	浦郡	市	西賀郡	市	勝郡	市	勝東郡	市	勝島郡	市

高知縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	福岡縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區	第十五區	第十六區	第十七區				
宇摩郡	市	一人	六人	一人	一人	一人	一人	高岡郡	市	佐多郡	市	佐川郡	市	佐野郡	市	佐高郡	市	佐長郡	市	佐美郡	市	佐喜郡	市	佐良郡	市	佐土郡	市	佐和郡	市	佐和郡	市

大分縣	郡	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	佐賀縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	熊本縣	市	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第十四區
田企郡	郡	八人	大分郡	郡	北海郡	郡	南海郡	郡	筑後郡	郡	筑前郡	郡	筑紫郡	郡	筑後郡	郡	筑前郡	郡	筑紫郡	郡	筑前郡	郡	筑紫郡	郡	筑前郡	郡	筑紫郡	郡	筑前郡	郡	筑紫郡	郡	

第七區	下益城郡	宇土郡
第八區	八代郡	土佐郡
第九區	球磨郡	北土佐郡
第十區	天草郡	大隅郡
宮崎縣	郡五人	郡五人
第一區	(宮崎郡)	(南那珂郡)
第二區	(西北諸縣郡)	(東諸縣郡)
第三區	(西臼杵郡)	(東臼杵郡)
鹿兒島縣	市九人	郡二人
第一區	鹿兒島市	鹿兒島郡
第二區	鹿兒島郡	鹿兒島郡
第三區	鹿兒島郡	鹿兒島郡
第四區	鹿兒島郡	鹿兒島郡
第五區	鹿兒島郡	鹿兒島郡
第六區	鹿兒島郡	鹿兒島郡
沖繩縣	一人	一人
第一區	(那霸郡)	(首里郡)
第二區	(宜野座郡)	(中頭郡)
第三區	(糸満郡)	(糸満郡)
第四區	(那覇郡)	(那覇郡)
第五區	(宜野座郡)	(宜野座郡)
第六區	(糸満郡)	(糸満郡)

〔政府委員一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(一木喜徳郎君) 衆議院議員選舉法改正法律案ハ既ニ此前ノ議會ニモ提出ニナリマシテ、政府案ニ對シテハ當院ハ御協賛ナシ、斯ケレドモ、唯イマスルカラ、別段詳細ノ理由ヲ申述ベルマデモゴザイマセヌケレドモ、唯簡單ニ今回提出ニナリマシタ所ノ理由ヲ一言致シテ置キマス、此選舉法ハ御承知ノ如ク既ニ十數年實施セラレテ居リマスケレドモ、今日ニナッテ見ルト云フト其當時トハ餘程事情モ變ツテ居ル所モゴザイマシテ、第一ニハ人口ノ不平均モ生ジマシテ、今日ノ選舉區畫デ今日ノ議員數デハ往々一ノ選舉區ト他選舉區ノ間ニ不平均ガアル、人口ガ却ツテ多クシテ議員ガ却ツテ少イト云フ例モ間々アリマス、此不平均ヲ矯メルト云フコトモ必要デアラウト認メタノ

ニアリマス、又一ツニハ今日ノ制度デハ少數者ノ代表其他社會ノ狀態ヲ其實際ノ有様ニ比例シマシテ代表スルト云フ上ニ於キマシテ遺憾ナルコトヲ免レヌ、ソレデ是ハ選舉區ヲ大キクシマシテ、サウシテ社會ニ於キマスル各方面ソレゾレ相當ニ代表サセルノ必要ガアルト云フコトヲ認メマシタノニアリマスル、ソレカラ又現行法ニ於キマシテ記名投票ノ法ヲ用ヒテ居リマスケレドモ、記名投票ニ附キマシテハ往々弊害ガアリマシテ、或ハ動モスレバ選舉人が自由ニ自分ノ意思ニ從ツテ投票スルコトガ出來ナイト云フヤウナコトヲ免レマセヌ、ソレデ是ハ既ニ地方制度ニ於テモ採用シテ居リマスルケレドモ、無記名投票ヲ採用シマセヌケレバ選舉人ノ自由ナ投票ヲ保護シテ行クコトガ出来ナイト云フコトニ政府ハ認メマシタノデゴザイマスル、ソレデ此等ノ要點ニ向ツテ改正ヲ加ヘマスルノガ政府ヨリ提出シマシタ所ノ選舉法改正ノ趣旨デゴザイマス、然ルニ今回衆議院ニ於キマシテ政府案ニ大ナル修正ヲ加ヘマシタカラ、其修正ニ對シマスル政府ノ意見ヲ一應申述ベテ置キマス、衆議院ノ修正ハ種々ノ條項ニ涉ツテ居リマスケレドモ、其要點ハ第一ニハ府縣ヲ以テ一選舉トスル、市ダケハ別ノ選舉區デスルト云フ政府ノ案ニアリマシタケレドモ、衆議院ハ小選舉區ノ制度ヲ用ヒマシテ、其區畫ハ衆議院ニ於テ委員ヲ設ケテ之ヲ調査致シマシタノニアリマス、併シ政府ハ先刻モ申述ベマシタ如ク大選舉區デナケレバ、而シテ單記法ヲ用ヒナケレバ十分代表ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイ、小選舉區デゴザイマスルト云フト其區畫内ニ於テハ少數ニアッテ一地方ヲ通ジテ相當ノ代表ヲ得ベキダケノ勢力ノアリマスル者デモ區畫ガ小サイ爲ニ代表ヲ得ナイト云フコトニナリマス、又區畫ヲ小サク致シマスルト云フト其區畫ノ間ニ人口ノ平均ヲ得ルト云フコトガ餘程ムツカシイ現ニ今日衆議院ニ於テ修正ヲ加ヘマシタ案ニ附イテ見マシテモ或ハ六萬ニシテ議員一人ヲ出シ、或ハ十四萬ニシテ議員一人ヲ出スト云フ不平均ガアリマス、是等ノ不平均ヲ矯メマシテ、サウシテソレゾレ相當ノ代表ヲ出サシメマスルト云フニハ矢張リ政府案ノ通り區畫ヲ大キクシナケレバイケマセヌ、又一地方全體ヲ通ジテ名望アル者ハ區畫ガ小サク限ラレタガ爲ニ當選スルコトガ出來ナイト云フヤウナ弊ガアリマス、要スルニ少數代表者若グハ比例代表ノ目的ヲ達シ名望ノアル人物ヲ擧ゲ竝ニ選舉區畫ノ間ニ人口ノ不平均ヲ矯メマスルニハ、政府案ノ如ク一府縣ヲ通ジテ選舉權ヲ附スルノガ最モ適當デアルト政府ハ認メテ居リマスルカラ、衆議院ニ於テ小選舉區ニ修正ヲ致シマシタノハ政府ハ同意ヲ表シナイ所デゴザイマス、又既ニ選舉區畫ニ附イテ申述ベ

マシタ通り政府ハ大選舉區デ單記ト云フコトト相關聯シテ比例代表ノ目的
達スルト云フ趣旨デゴザイマスルノニ、衆議院ニ於キマシテハ聯記ノ法ナ用
ヒマシタ、即チ一選舉區二人ナ選出スベキ所ニ於キマシテハ聯記投票ナ用ヒ
ルト云フコトニ修正致シマシタケレドモ、是亦政府ノ同意ヲ表セナイ所デゴ
サイマス、ソレカラ先刻モ申述ベマシタ如ク、記名投票ナ無記名投票ニ改メ
ルト云フノガ政府案ノ一つノ重モナル點デゴザイマシテ、此改正ハ選舉ノ自
由ヲ保チマスル爲ニ必要デアルト政府ハ認メテ居リマスルノニ、衆議院ニ於
テ此點ニ對シテ修正ヲ加ヘテ、即チ現行法ノ如ク記名投票ノ法ニ致シマシタ
ノハ、政府ノ改正ヲ必要ト認メテ居リマスル趣旨ニ反對スルノデアリマシ
テ、是亦政府ノ同意ヲ表セナイ所デゴザイマス、要スルニ今回選舉法ヲ提出
致シマシタ所ノ趣旨ハ前來申述ベマシタ通リデゴザマイシテ、衆議院ガ其要
點ニ向ヒマシテ修正ヲ加ヘマシタノハ政府ノ同意ヲ表シナイ所デアリマスカ
ラシテ、何卒政府案通り本院ハ御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス
○辻新次君 チヨット……此朱書ノ第十二條、墨書ノ十二條、是ニ「小學校教
員ハ被選舉權ヲ有セス」ト云フコトガアリマス、然ルニ現行法ニハ小學校教
員ト云フモノハ掲ゲテアリマセヌ、即チ被選舉權ヲ有シテ居ル、又現行法ノ
小學校教員ガ被選舉權ヲ有シテ居ルト云フコトニ附イテ一向ソレガ爲ニ弊害
ナ來タシタトカ、又ドウ云フ舉動ガアッタトカ云フコトモ餘リ承ラヌ所デアリ
マス又教育ノ上ニ附イテモ一向ソレガ不都合ヲ爲シタト云フコトモ聞イテ居
リマセヌ、尤モ歐羅巴ノ各國ノ中ニモ小學校教員ニ被選舉權ヲ與ヘテ居ラヌ
所モアリマスガ、又與ヘテ居ル所モ澤山アリマス、然ルニ現行法ニモナイノ
ニ此改正ノ法案ニ特ニ入レラレタト云フノハ必ズ必要ガアッテノコトデアラ
ウト思ヒマスガ、其之ヲ特ニ入レラレマシタコトノ必要ノ理由ヲ委シク承リ
タイノデゴザイマス

○政府委員(一本喜徳郎君) 御答ナ申シマスガ、現行法ニハ成ル程唯今御述
ノ如ク此規定ハゴザイマセヌ、併シ今回ノ法案ハ必シモ現行法通り規定致シ
マセヌ、現ニ此條ノ第二項ノ如キハ現行法ニハナイ規定デゴザイマシテ今回
設ケタ規定デゴザイマス、ソレデ現行法ハ是等ノ點ニ於テ不備デアルト感ジ
テ居ルノデゴザイマス、現行法ト申シテモ衆議院議員選舉法ハ如何ニモ唯今
御述ノ通リデゴザイマスガ、ソレハ昨年當院並ニ衆議院ノ協賛ヲ經テ發布サ
レマシタ府縣制郡制等ニ於キマシテハ小學校教員ハ被選舉權ヲ有セナイト云
フコトヲ規定致シマシタ、ソレカラ市町村制ニ於テハ前々ヨリ其規定ガアリ

マス、要スルニ小學校教員ノ如キハ專心一意教育ノコトニ從事スベキモノデ
アツテ、選舉ノ運動ニ從事スル端緒ナ開クコトハ極メテ教育ノ爲ニ不利益デ
ゴザイマス、又選舉ノ爲ニ小學校教員ノ如キハ他ノ學校ノ教員ト比較シテ一
層父兄ノ上ニ勢力ヲ持ツモノデアル、又子弟ニ對シテ感化力ヲ持ツモノデア
ルノニ、ソレガ選舉ノコトニ携ツテ運動スルコトニナリマスノハ教育上ニ取
リマシテモ、又選舉ノ上ニ取りマシテモ不都合ナコトデアル、成ル程現在ノ
所ハ是マデドレダケノ害ガアッタト云フコトハ今其事實ヲ擧ゲテ御答スルコ
トハ出來マセヌケレドモ、併ナガラ今回ハ是マデト違ヒマシテ選舉資格モ餘
程低クナテ居ルコトデアリマス、ソレデアリマスカラ是マデ實際弊害ガナ
カラ今後モ弊ガナイト云フコトハ必シモ斷言ハ出來マセヌ、ノミナラズ假令
實際弊ガナニシテモ若シ小學校教員ガ被選舉權ヲ有シ、ソレガ選舉ノコト
ニ關係シ運動スルコトニナッタラ弊ガアラウト云フコトハ想像が出來ルコト
デアルト考ヘマス、ソレデゴザイマスカラシテ小學校教員ハ被選舉權ヲ有セ
ヌコトヲ今回種々ノ規定ヲ完全ニシマスルト同時ニ此十二條ニ加ヘマシタ次
第デゴザイマス

○辻新次君 外ノコトハ議論ニ亘リマスカラ是ハ後ニ讓リマスガ、小學校ノ
教員ノ如キ者ガ專心其事ニ從事シマスルコトハ大イニ御同感デアリマス、併
ナガラ衆議院議員選舉法ガ出マシテカラ最早數年又選舉モ度々アリマシタ、
所ガ一向サウ云フヤウナコトデ専心其事ニ從事スルコトヲ妨ゲマシタト云フ
コトハ聞キマセヌノデアリマスガ、凡ソ法律ナ更ヘルトキハ最モ慎重ニシテ
其弊害ノアッタヤウナコトハ十分ニ取締ヲ附ケナケレバナラヌコトデアリマ
スガ、我國デハドウ云フコトデ専心從事セヌヤウナコトガアリマシタカ、ソ
レナチヨット承ッテ置キタイ

○政府委員(一本喜徳郎君) 先刻御答申上ダマシタ如ク、是マデノ例ニ依
テ強チ將來ヲ推スト云フコトハ出來マセヌノハ、一二此選舉法ニ於キマシテ
ハ選舉權ノ資格モ餘程廣クナッテ居リマス、是マデノ衆議院議員ノ選舉ヨリ
モ寧ロ府縣會議員ノ選舉ノ方ニ選舉資格拵カラ云フト近寄ツテ參ツテ居リマ
ス、ソレデアリマスカラシテ是マデノコトヲ以テ強チ將來モ其通リデ宜イト
云フコトヲ斷定スルコトハ出來ナイト考イマス、ソレカラ又若シ小學校教員
ガ被選舉權ヲ有シナイ爲ニ、小學校教員ノ權利ニ非常ナ制限ヲ與ヘルト云フ
コトデアリマスレバ、是ハ餘程考ヘベキコトデアリマスケレドモ、唯今辻サ
ンノ御述ニナツタ所ニヨリマスルト、從來小學校教員ハ專心一意小學校ノ教

育ニ從事シテ被選舉權ヲ行使スルコトハナイト云フ御考デアリマスレバ此規定ヲ設ケマシタ所ガ強チ小學校教員ニ對シテ非常ニ酷ナ規定ト云フコトデハナカラウト思ヒマス、旁此規定ヲ入レマシタノハ衆議院議員選舉法改正ニノデ、又法律制度ガ段々備リマシテ先刻例ニ取リマシタ府縣制郡制ニモ此規定ガ入レテアリマスカラ今日ニ於キマシテ衆議院議員選舉法ヲ改正スルナラバ矢張リ此規定ヲ入レルノガ適當デアルト認メタノデゴザイマス

○伊澤修二君 本員モチヨット質問ヲ致シタイ、成ル程政府委員ノ抑シャル通リ市町村制ニハ無論小學校教員ハ被選舉權ハ前ヨリナイノデアリマス、ソレカラ此郡制府縣制ノ改正ニ依ツテ此方ノ議員ニモ矢張リ被選舉權ハナイト云フコトハ能ク承知シテ居リマスガ、要スルニ此小學校教員ノ被選舉權ヲ制限サレテ居ルノハ小サナ區域ニ在ツテハ餘程弊害ガアルノデアリマス、例ヘバ町村會ノ議員トカ云フヤウナ小サナ區域ニ於テハ隨分弊害ガアルガ故ニ之ヲ制限サレテ居ルモノト本員ハ考ヘテ居ツタノデアリマス、此度ノ衆議院ノ選舉法ノ改正案ヲ見マスルト政府ハ大選舉區ト云フコトナ主張サレテ居ル、唯今モ政府委員が喫々ト此大選舉區ニシナケレバナラムト云フコトナ言ハレテ居ルノデゴザイマス、果シテ大選舉區ト云フコトニナレバ小學校教員ノ中ニ於テモ隨分德望モ名譽モアル人ガ決シテ其競爭運動抔ナセズトモ自ラ其選舉ヲ得ルト云フヤウナコトガ……

○議長(公爵近衛篤磨君) 質問デアリマスカ、議論デアリマスカ

○伊澤修二君 ハイ、チヨット、ソノ質問デゴザイマス、有リ得ベキコトデハナイカト存ジマスガ、政府委員ハ一方ニハ大選舉區ノコトナ主張シナガラ一方ニハ小學校教員ノ被選舉ヲ限ラレルト云フコトハ自家撞著デハコザイマセヌカ、其點ニ於テ政府ノ御考ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(一木喜徳郎君) 少シモ自家撞著デハナイト云フ考デアリマス、ト云フモノハ既ニ府縣會議員ノ選舉ニ於テハ此規定ガアルト云フコトハ御承知デアリマスガ、府縣會議員ノ選舉ト衆議院議員ノ選舉トハ成ル程度ハ違ヒマス、併ナガラ所ニ依リマスレバ一郡ニ於テ衆議院議員一人ナ出ス位ニナツテ居ルノデアリマシテ、府縣會議員モ郡ナ以テ選舉區ト致シテ居ルノデアリマス、ソレデアリマスカラ其程度ノ違ハ至ツテ僅ナ違デアリマス、加之縦ヒ小學校教員ノ勢力ノ及ブ範圍ハ至ツテ狭イニ致シマシタ所ガ、政府案ノ如ク大選舉區トシテ單記ニナリマスレバ猶更デゴザイマス、何所ノ區畫ニ於テモ

投票ヲ得テ其投票ヲ集メテ當選スルコトガ出來ルノデアリマスカラ、自分ノ勢力ヲ持ツテ居ル場所ニ於テ得ル所ノ投票ト他ノ關係ニ於テ得ル所ノ投票トナ合セテ當選ヲ希フト云フコトモ出テ來ルカモ知レマセヌ、ソレデアリマスカラ大選舉區單記デアレバ猶更此規定ノ必要ガアルト思フノデアリマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 別ニ御質問ハアリマセヌカ……他ニ御發議ガナケレバ委員ノ選定ニ移リマス

○松永安彥君 此法案ハ重大ナル問題デゴザイマスカラ、最モ慎重ナル審査ヲ要スルモノデアラウト思ヒマスカラ、委員ノ數ナ十五名ニセラレムコトヲ望ミマス、而シテ其選定ハ議長ニ御委託ヲ致シタイ

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○侯爵黒田長成君 本案ノ特別委員ノ數ノコトデゴザイマスガ、唯今松永君カラ十五名ト云フ說モ出マシタガ、前議會ノ時ニハ此選舉法改正案ノ委員ノ數ハ二十五名デアツタカト記憶シテ居リマス、此度ノ案ハ先刻ノ政府委員ノ説明ニ依ツテ見マスト、根本ニ於テ政府案ト衆議院ノ修正決議案トハ違ツテ居ルノデ、餘程是ハ審査ヲ鄭重ニ致サナケレバナルマイト思ヒマス、ソレデ矢ト云フコトニ致シタイト思ヒマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○千阪高雅君 贊成
〔其他「贊成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 松永君ノ動議ニハ贊成ガアリマシタ力

〔「有リマシタ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 案ニ兩說成立ツテ居リマスカラ先づ松永君ノ動議ニ附イテ決テ採リマス、松永君ノ十五名說ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數ト認メマス、次ニ二十五名說ニ同意ノ諸君ノ

シタ

イマヌ

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス、法人ニ於テ租稅及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔伯爵德川達孝君演壇ニ登ル〕

○伯爵德川達孝君 法人ニ於テ程枕及葉煙草專賣ニ關シ事犯アリタル場合ニ關スル法律案ノ委員會ニ於ケル再調査ノ結果ヲ御報道致シマス、此案ノ委員會ハ諸君モ御承知ノ通り一旦昨年デゴザイマシタ十二月ノ幾日カ日ハ忘レマシタが報告致シマシタ所ガ再付託ニナリマシテ、尙ホ其上再調査致シマシテ十分ニ審議ナ盡シマシテ諸君ノ御手許ヘ配付致シマシタ如ク修正ニ相成リマシタ、其修正ハ全會一致ナ以チマシテ修正ニナリマシタ、併ナガラ全會一致ト申シマシテモ十五名殘ラズ出席ニナッタ譯デモゴザイマセヌ、出席者ハ委員長ヲ除イテ八名デハゴザイマシタガ、其出席シタダケニ於キマシテ一致ナ以チマシテ修正ニ相成リマシタ、又此法律案ノ修正ハ政府ニ於キマシテモ同意サレタノミナラズ賛成セラレタ次第デゴザイマス、此修正ハ寧ロ修正ト申スヨリハ新ニ起草シタ位ノ大修正デゴザイマシテ、此修正ノ理由ナ申述ベマスルコトハ本員ノ如キ法理ニ暗イ者ニハ明瞭ナル所ノ説明ハ出來難ク存ジマス、甚ダ御聽苦シクゴザイマシテ諸君ニ對シテ御氣ノ毒デハゴザイマスガ、一應其大要ナ極ク簡短ニ申述ベマスレバ、此政府ヨリ提出ニナリマシタ所ノ原案ハ法人其物ハ無形デアル、故ニ罰スルコトガ出來ナイカレシテ其行爲ナ爲シタル者ノミナ罰スルト先づ斯ウ云フヤウナ精神デゴザイマシタ、併シナガラソレデハ不都合ナ點モアルト云フ意味ナ以チマシテ、此修正案ノ如ク此度ハ法人其者ナ罰スル、若シ又其法人ナ罰金又ハ科料以外ノ罰ニ處スルコトノゴザイマスルトキニハ法人故ニ禁錮等ニ處スルコトハ出來下ノ罰金ニ處ス」斯ウ云フ風ニ處罰スル、又法人ナ處罰スベキ場合ニハ法人ノ代表者ナ被告人ト定メ、ソレカラ又若シ三百圓以下ノ罰金ナ出スベキ場合ニ於テ一定ノ期限内ニ納付ナ致サヌトキニハ第三條ノ規定シタルトキハ法人ノ代表者ナ被告人ト定メ、ソレカラ又若シ三百圓以下ノ罰金ナ出スベキ場合ニ於テ一定ノ期限内ニ納付ナ致サヌトキニハ第三條ノ規定シタルトキハ

第六編ノ規定即チ強制執行ナ以テ處分致ス、斯ウ云フ風ニナリマシテ此度ノハ法人ソレ自身ナ罰スルト云フ風ニナリマシテ原案トハ大分違ヒマシタ譯デゴザイマス、此修正ハ前ニ申シマシタ如ク政府ニ於テモ同意セラレマシタ故ニ、又其同意セラレマシタ理由ナ政府委員カラ詳細ニ申述ベラレルコトモゴザイマセウ、若シ又諸君ノ中デ此報告ニ附キマシテ御疑等ガゴザイマスレバ十分ニ御質問モゴザイマセウガ、本員ノ出來マス限リハ御答モ致シマスルガ、此詳細ノコトハ委員中ニハ法理上ヤ又ハ事實上ニ於テ熟達サレタ御方モ御出デゴザイマセウカラ、委員ノ中ヘ御質問ナ願ヒマセウシ、又或ル場合ニテ其方ガ諸君ニ於テモ能ク御分リニナルコトカト存ジマス、終リニ臨ンデ一言申述ベテ置キマスルガ、本案ハ諸君ニ於テモ御承知ノ如ク大分喧マシクナリマシテ再三ノ調査致シマシタコト故ニ此修正デモマダ不十分ノ點ガアルカモ知レマセヌガ、極ク不十分ノ點ガアルナラバイザ知ラズ大體ニ於テ左程不都合ト云フ譯デゴザイマセヌケレバ相成ルベクハ委員會ニ於テ修正ニナリマシタ通リニ御贊成アリマシテ直チニ可決ナラムコトナ偏ニ希望致シマス○子爵黒田和志君 委員長ニ質問ナ致シマス、此第一條ノ初ニ「法人ノ代表者又ハ其ノ雇人」トゴザイマス、此「又ハ」ノ下ノ「其ノ」是ハナクテモ宜イヤウニ見エマスガ、是ハ法人ナ指シタノデゴザイマスカ代表者ナ指シタモノデゴザイマスカ、代表者ノ雇人ト云フコトニ解スル譯デゴザイマスカ、ソレナシテ伺ヒタイ、其次ハ矢張リ第一條ノ第二行目デゴザイマス、之ニ「各法規ニ規定シタル罰則ナ法人ニ適用ス」トスウゴザイマス、爰ニ「適用」ト書キマシタノハ法人ナ處罰スルト言ヒマスト穏ナラヌ何カ嫌ガアルト云フ譯デ適用ト云フ文字ナ用ヒタカトモ存ジマスガ、此次ノ條第二條ニ至リマシテ「法人ナ處罰スヘキ」トスウゴザイマス、サウスルト初ニモ「法人ナ處罰ス」トマセヌ、故ニ罰金ナ科スル、ソレハ即チ此修正ノ第一條ノ但書ニゴザイマス通リ「罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコトナ規定シタルトキハ法人ナ三百圓以下ノ罰金ニ處ス」斯ウ云フ風ニ處罰スル、又法人ナ處罰スベキ場合ニハ法人ノ代表者ナ被告人ト定メ、ソレカラ又若シ三百圓以下ノ罰金ナ出スベキ場合ニ於テ一定ノ期限内ニ納付ナ致サヌトキニハ第三條ノ規定シタルトキハ

○伯爵德川達孝君 ソレダケデスカ……御答致シマス、此第一條ノ「法人ノ代表者又ハ其ノ雇人」此雇人ト申スノハ政府ヨリ提出ノ原案ノ法人ノ代表者タル雇人ト云フ意味デゴザイマシテ、矢張リ法人ノ家ニ居ル所ノ雇人ノヤウ

ナ意味デゴザイマス、ソレカラ此各法規ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
此事ハ各法規ト云フノハ御承知ノ通り諸稅法ダノ又ハ葉煙草專賣規則并、ソ

レニアル所ノ規定ヲ此法人ニ適用スル、即チ其規定ニ從ツテ法人ヲ處罰スル
ト云フ意味デ、別段適用ト云フコトニ附イテハ委員會デハ此提出者カラモ詳
細ノコトハ申サレマセヌガ、其規定ヲ法人ニ用ヒテ法人ヲ矢張リ處罰スルト、
詰リ二條ノ「法人ヲ處罰スヘキ」ト云フノト同ジ意味デアルヤウニ存ジテ居
リマス、ソレカラ第三條ノ「執行力ヲ有スル債務名義」是ハ民事訴訟法ノ五
百十六條ニゴザイマスノデ、其規定ニ從ツテ致ス、斯ウ云フ意味デゴザイマ
ス、尙又ソレデ御分リナクバ、ドウカ政府委員ニ御尋ニナリマスレバ委シク
答辯セラレルデゴザイマセウ

○議長(公爵近衛篤磨君) 別段御發議ガナクバ採決シマス、本案ヲ二讀會ニ
移スペシトシテ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ本案ハ二讀會ニ移スペシト決シマス

○子爵小笠原壽長君 議事日程ヲ變更シテ直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ
希望致シマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ第二讀會ヲ開クト云フコトノ動議が出テ贊
成ガゴザイマス、御異議ガナケレバ直チニ第二讀會ヲ開キマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 本案全部ヲ問題ニ供シマス

第一條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ租稅及
葉煙草專賣ニ關スル法規ヲ犯シタル場合ニ於テハ各法規ニ規定シタル罰
則ヲ法人ニ適用ス但シ其ノ罰則ニ於テ罰金科料以外ノ刑ニ處スヘキコト
ヲ規定シタルトキハ法人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第三條 法人ヲ處罰スルノ裁判確定シタル日ヨリ罰金ニ關シテハ一月以内

科料ニ關シテハ十日以内ニ之ヲ納完セサルトキハ民事訴訟法第六編ノ規
定ニ從ヒテ其ノ執行ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ檢事ノ命令ヲ以テ執行力ヲ

有スル債務名義ト同一ノ效力アルモノトス

前項ニ依リ執行ヲ爲スニハ執行前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

○議長(公爵近衛篤磨君) 委員會ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
タ 起立者 多數

○子爵小笠原壽長君 過半數ト認メマス、委員會ノ修正ノ通り決シマシ
タ ○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、委員會ノ修正ノ通り決シマシ
タ 希望致シマス 「贊成」ト呼フ者多シ

○議長(公爵近衛篤磨君) 直チニ第二讀會ヲ開クト云フコトニ御異議ハゴザ
イマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ第二讀會ニ移リマス、御異議ガナクバ原案
ニ決シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者多シ

○議長(公爵近衛篤磨君) 鐵業條例中改正法律案、政府提出、衆議院回付、會
議ニ依リ及回付候也

○議長(公爵近衛篤磨君) 鐵業條例中改正法律案、政府提出、衆議院回付、會
議ニ依リ及回付候也

鐵業條例中改正法律案

右貴院ノ送付ニ係ル政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十
五條ニ依リ及回付候也

明治三十三年二月二日 衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨殿 (參議院回付案原案ハ本院ノ送付案ニ△印ノ如ク修正ラ加ヘタルモノナルヲ以テ其修正アル條ノミヲ掲ケ他ハ之ヲ略ス)

鐵業條例中左ノ通改正ス

第二條中「鉛鑛」ノ下ニ「蒼鉛鑛」、「硫化鐵鑛」ノ下ニ「格魯謨鐵鑛」、「砒
鑛」ノ下ニ「燐鑛」「石炭」ノ下ニ「樹炭」、「石油」ノ下ハ「土瀝青」ヲ加フ
△亞炭
△第三條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ設立シタル會社ニ非サレハ鐵業人ト
ナルコトヲ得ス

△第四十八條中第四號ヲ左ノ如ク改ム

△一 鐵業上必要ノ製鍊場其ノ他ノ建物、電線、鐵索及鐵管ヲ建設スル爲

第九十二條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

△明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ蒼鉛鑛、格魯謨鐵
鑛、燐鑛、樹炭又ハ土瀝青ヲ採取スル者ニシテ明治三十三年六月三十日

迄ニ其ノ鑛物採取ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ採取區域ニ限り第十六條及鑛區ノ面積ニ關スル第四十一條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ採取者ハ明治三十三年六月三十日迄、其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ採取ヲ繼續スルコトヲ得

○伯爵坊城俊章君　此案ヲ本院デ修正ナ致シマシタ會議ハ私ガ委員デゴザイマシタ、抑、此法文ト云フモノハ、元來元ノ法ト云フモノハ隨分不備ナ所ガ澤山ニアルノデゴザイマス、サリナガラ今般ノ所ハ第二條ニ追加ナ致シマス所ダケガ頗ル急務デゴザイマシタ爲ニソレダケナ修正ナ致シテ置キマシタダケノコトデゴザイマス、他ハ本會期ニハ間ニ合ハヌガ早々ニ完全ナモノヲ拘ヘテ出スト云フ政府ノ回答デゴザイマシタ、依リマシテ其急務ノモノダケヲ採決ナ致シマシタコトデゴザイマス、サリナガラ此度又衆議院ヨリ修正致シテ參リマシタ所モゴザイマスカラ、尙ホ是ハ能ク取調ベタイ積リデゴザイマスカラ、此案ハ委員ニ再付託ニナリマスコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君)　坊城伯爵ハ前ノ委員ニ再付託スルト云フノデアリマスカ

○伯爵坊城俊章君　左様デゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君)　坊城伯爵ニチヨット申シマスガ、前ノ委員ハ既ニ消滅シタノデアリマス

○伯爵坊城俊章君　然バ別ニ委員ナ議長ノ選擇ニ任セマス

○伯爵大原重朝君　贊成

○男爵尾崎三良君　此鑛業條例ニ附キマシテハ我々モ意見ヲ持テ居リマスケレドモ、政府デ今調中デアルカラト云フコトデ原案ニ贊成致シテ置イタノデアリマスガ、此度衆議院ガ修正シテ參リマシタニ附キマシテハ、最モ我我ハ豫テ希望スル修正デアリマスカラ、無論異存ハゴザイマセヌガ、併ナガラ兎ニ角此儘通過致シテ置クト云フコトハ如何ハシイ事デアリマスカラ、坊城伯爵ノ請求ノ通り更ニ特別委員ニ託サレテ一應審議セラル、ヤウニ致シタイト存ジマス、依ツテハ坊城伯爵ノ委員說ニ贊成ナシテ且ツ其選舉ハ議長ニ委託スルコトニ致シタイ

○議長(公爵近衛篤磨君)　坊城伯爵ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵近衛篤磨君)　然ラバ議長ニ於テ選定スルコトニ御異議ハゴザイマセヌカ

○議長(公爵近衛篤磨君)　民法施行法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

〔男爵小澤武雄君演壇ニ登ル〕

○男爵小澤武雄君　民法施行法中改正法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報道致シマスルガ、私ハ唯委員デアッテ其報告ヲ申ス實ハ準備モ何モナイ、併シ委員長副委員長トモ闕席デゴザイマスカラ、私が委員會ニ列ヅテ承知シテ居リマスルダケノコトヲ御報告ナ致シマス、此案ハ至シテ簡単ナコトデアリマスルケレドモ、委員會ニ於テハ篤ト調査モ致シマシタガ、衆議院ノ提出ノ通りデ不都合ハナイト云フコトニ決定ナ致シマシタノデゴザイマス、デ此事柄ハ主トシテ高知縣竝ニ兵庫縣等ニ、此法案ヲ設ケナバナヌト云フ事實が存在ナシテ居ル、其他ニモマダ類似ナモノガナイサウデゴザイマスケレドモ、

ノハ土地ヲ開クノト併セテ其昔ノ士ヲ殖サウト云フ目的デアッタ、其開墾ヲセルニ附イテハ、其郷士ナリ又士族ノ子弟抔ハ勿論資力ニ乏シイ者ガ多イモノデアルカラシテ其土地ノ權利ダケヲ貰ツテ、サウシテ實際資力ノアル百姓ニ委託シテ之ヲ開墾ナサシテ、サウシテは即チ永久ニ其開イタ者ガ其小作ノスルト云フ契約デ元ト成立ツタモノデ、サウシテ其地主タル所ノ郷士竝ニ士族ノ子弟等ハ其所ニ依ツテ違フサウデゴザイマスルケレドモ、其土地カラ收ムルデアリマスガ、此度衆議院ガ修正シテ參リマシタニ附キマシテハ、最モ我我ハ豫テ希望スル修正デアリマスカラ、無論異存ハゴザイマセヌガ、併ナガラ永小作人ト云フ者が皆取得ナスルコトニナツテ居ル、然ルニ御維新後、地租條例ノ改正後ニ至ツテ總テノ地租改正ノ時分ニ一般ニ其小作人ト地主トノ權限ヲ明瞭ニスル手段ヲ執ツテ政府カラ命令ナシテヤリ掛ケテ見タサウデハアリマスケレドモ、何分其事柄ガ折合ガ附カズニ其事モ中止シテ今日マデニ來テ居ル、ソレデゴザイマスカラ今日ハ地主ノ方カラ之ヲ強ヒテ申セバ總テ此土地ノ所有權ト云フモノハ地主ニアルト云フコトモ出來ル、又小作人ノ方カラ最初カラサウ云フ約定デ成立ツタモノデアルカラシテ小作人ノ所有權ノヤウニモアルト云フヤウナ誠ニ判然セズニ居ル、併ナガラ地租改正ノ當時ヨリ致シテ租稅ト云フモノハ總テ地主ノ名義ヲ以テ小作人カラ一切ノコトヲ納メ

テ居ルト云フ有様デアリマス、ソレデ此法律ヲ定メテ、即チ其小作ト云フモノノ性質ヲ今日認メテ置キマセヌト云フト、雙方ノ間ニ於テ始終ドウモ苦情ガ絶エナイト云フ有様デアリマスルカラ、此法案ヲ規定シテ置キタイ、丁度ソレトハ少シ變リマスルケレドモ、兵庫縣ニアリマスルノモ本願寺ノ開拓地デゴザイマシテ、略似テ居ルヤウナモノデアル、此高知縣ノコトニ附イテハアノ地方カラ請願其他ノ書類ガ諸君ノ御手許ニ皆回ツテ居リマスルノデ、定メテ御覽ニ相成ッタコトト存ジマスルカラ委シクハ申述ベマセヌガ、サウ云フヤウナ必要カラ此法律ハ衆議院ニ於テ提出セラレ、又政府モ之ニ同意ナセラレタ譯デアリマス、今日此事柄ニ附イテ他ノ委員デモ御出席デアリマシタナラバ、最モ詳細ニ報告サレルコトデゴザイマシタラウガ、生憎御出席ガナイカラ私ハ大略ノコトダケナ申上ゲルノデ、若シ御不審ガアレバ政府委員カラ答辯ナ致サレル積リデゴザイマスカラ、ドウカサウ御承知ナ願ヒマス、尙ホ序ニ申上ゲテ置キマスガ、是ハ簡単ナ法案デゴザイマスカラドウガ讀會省略ナ致シテ速ニ議決アラムコトナ望ミマス

○子爵本莊壽臣君 読會省略ニ賛成

○子爵黒田和志君 賛成

○伊澤修二君 賛成

〔其他「賛成」下呼フ者多シ〕

○野村恆造君 此法案ニ反対ノ意見ヲ持テ居リマス、述ベマシテ宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

〔野村恆造君演壇ニ登ル〕

○野村恆造君 私ハ前ニ御断申シテ置キマスルガ、演説ヤ坏ハ誠ニ下手ナ者デゴザイマシテ極ク簡短ニ述べマスルカラ御分リニナリマセヌ所ハドウカ御尋ナリ私ハ此法案ニ對シマシテハ絶對ニ惡ルイト云フ考デアリマセヌ、併シ唯今委員ノ御方カラ御述ニナリマスヤウニ高知縣兵庫縣ノ事柄カラ起テ斯ウ云フ改正ノ法律案が出来タ云フコトデゴザイマス、所が高知縣兵庫縣ノ情況ハ私モ耳ニシテ居リマスル、所が眞ニ永小作ト云ウテ宜カラウト思フ、併ナガラ各縣ノ中ニハ凡ソ類似シタモノが段々アリマス、所が其分ハ唯今ノ民法發布ニナリマシタ時分ノ事デモゴザイマスカラ地主小作間ニマダ何等ノ苦情話モ多イデゴザイマス、ソレデ要シマスルニ唯今此法律案が通過致シ

マスルト地方ハソレガ爲ニ色ミナ混雜ヲ來タシマセウト思フ恐ナ私ハ懷イテ居ル、類似ノ永小作ト申シマスレバドウ云フ景況デアルカト申シマスルト、租稅ハ地主ガ納メ凶年ノ際ハ地主ガ預ケ米ヲ下グル、唯年限ヲ永ク作ッタコトト内々小作權ヲ賣買シタト云フ事柄デ、小作人ト自分ニハ考ヘテ居ル、ソレ故先年モ私ガ實際ヲ知テ居リマスルガ、聞イテモ知ッテ居リマスルガ、遂ニ裁判ナ仰イデ裁判所ニ於テハ唯今申述ベマスルヤウニ作ル年限ノ永イノト内々ニ賣買ナシデ居ルト云フ所ノ内々ノ取引證書ヲ以テ永小作ト判定ニナリマシタ所ガアリマス、裁判ノ結果ハ固ヨリ諸君ニモ御承知ノ通り唯個人ノコトデゴザイマスルカラソレナ他人ニ及ボスト云フコトハ勿論出來マセヌ、併ナガラ地方ニ取リマスルト一人二人ノ永小作ト云フ判定ナ受ケマスルト凡ソ類似ノモノハ皆自分等ガ永小作ト考ヘル、ソレ故此法律案が通過致シマスレバ地主ト小作間ノ差縫レハ澤山ニ起ツテ參ラウト考ヘマスル、固ヨリ今日ノ民法發布ニナリマシタ以上ハ地主小作間愈々永小作デアルカ永小作デナイカト云フコトモ確定シテ參リマセヌニヤーナリマセヌガ、ナカナカ地方ノ情況ト申シマスルモノハサウ參リマセヌ、中ニハ小作人ハ誠ニ頑固トシテ昔ノ事バカリ言ヒ、地主ガ幾ラ言ウテ聞カシテモ其事ハ用ヒズニ協議モ調ヒマセヌト云フヤウナ所ガ段々アリマス、サウ云フ情況ガアリマスルモノデゴザイマスルカラ、私ハ此法律案ハ暫ク延期ニナリマシタ方ガ却ツテ地方ノ爲デアリマセウト考ヘテ居リマスル、若シ是が通過シマスレバドウ云フ情況ナ來タシマスルカト云ヘバ、到底裁判ナ起シマスルヨリ外ニ仕方ガナイ、裁判ナ起シマシタラバドウカト言ヒマスルト、地主ノ倒レマスヨリモ小作人ノ倒レル方が多イ、御承知ノ通リニ地方ニハ裁判事件ニ附イテ色々モグリトカ何トカ云フヤウナ種々ナリ人ノ訴訟ノ起ルノナ仕事トシテ居ルト云フヤウナガ段々アリマス、唯ソレ等ノ腹ヲ肥スバカリノヤウナコトニナリマシテ、遂ニ小作人ハ地主トノ間ノ話合ノ爲ニ裁判ノ爲ニ遂ニ身代ヲ失フト云フヤウナ慘狀ナ來タサウカト私ハ恐レテ居ル、ソレデ又此改正ノ法律案ナ見マスルニ五十箇年ノ先満一箇年トアリマス、固ヨリ此場合ニ參リマスルト五十箇年先デゴザイマスカラ、今日サシテ差支ナイヤウニゴザイマスルガ、併シ高知縣其他兵庫縣ノ情況ハ略々私モ承知シテ居リマスガ、今ヨリ五十箇年先ノコトナリ極メテ置キマスル程ノコトハ私ハアリマスマイト思ヒマス、前ニ申述ベマスルヤウニマダ民法發布ニナリマシテモ當分ノコトデ、小作人モ分ラネバ又地主ニモ分ラヌモノガ段々アリマセウト思フ、現ニ私モ承知シテ居リマ

ス、サウ云フ今日ノ場合ニ地方ノ混雜ナ來タシマスルコトハ私ハ宜シクアル
マイト考ヘマス、詰リ私ノ申述ベマスル要領ハ之ヲ否決ニナリマシテ當分之
チ延期ニナリマスル方ナ希望致シマス、地方ノ情況ニ對シマシテ巨細御尋ニ
ナリマスレバ委シク御話致シマスガ、私ハ不辯デゴザイマスカラ要領ダケヲ
……

○中西光三郎君 チヨット野村君ニ御尋致シマスガ、唯今例ナ御舉グニナリマ
シタ小作證書ハ永小作ト云フコトヲ記載シテアルノデゴザイマセウカ、如何
デゴザイマス

○野村恆造君 私が述ベマシタノハ小作證書ハナイノデス、唯今御話シマス
ルヤウニ年限ノ長イノト自分が内々賣買シマシタノチ以テ自分が永小作トシ
テ地主カラ協議シマシテモ協議ニ應ジナイ、ダカラ小作證書ハナイノデス

○中西光三郎君 政府委員ニチヨット伺ヒタウゴザイマス、此法案ニ附キマシ
テ政府ノ御意見ハ如何デゴザイマスカ、之ヲ伺ヒマス

〔政府委員梅謙次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(梅謙次郎君) 第一讀會ノ初ニ於キマシテ政府ノ意見ハ略申上
ゲ置キマシタル通リ本案ニ對シテハ反對ハ致シマセヌノデ、チヨット唯今ノ御
說ニ對シマシテ一言申上ゲテ置キマスルノハ、政府ニ於テ調査ヲ致シマシタ
所デモ、永小作ト稱スル者ノ多數ハ唯今ノ野村君ノ御述ニナッタヤウナモノ
デアルト云フコトナ認メマシタ、故ニ之ヲ五十年ニ限^ツテ然ルベキモノト考
ヘマシタ、其規定ハ民法施行法第四十七條第二項ニ於キマシテ單ニ期間ヲ定
メズシテ設定シタル永小作權即チ唯今野村君ノ御述ニナッタヤウナモノハ是
ハ民法施行法ハ五十年デ打切ルト云フノデアリマス、即チ此高知縣兵庫縣ニ
存シテ居リマス初ヨリ永久存續スベキモノトシテ明ニ設定致シマシタル所ノ
永小作權ニ限^ツテハ段々事情ヲ取調べテ見マスルト不都合ナ點モアルヤウデ
アリマスカラ、此法案ノ如クナリマシテ差支ナカラウト考ヘマシテ反對ヲ致
シマセヌ

○中西光三郎君 唯今野村君ノ御說ハ大ニ參考ニナルベキ御說ト感ジマス點
モゴザイマス、固ヨリ小作證書ハ……(聽取シ難シ)口頭契約ニ止^ツテ居リマ
ス、左様ナモノデゴザイマスルナラバ決シテ……(聽取シ難シ)

○子爵谷千城君 讀會省略デ御異論ナク通ズルコトナラバ私ハ何モ申ス必要
ハアリマセヌガ、チヨット委員長デ居リナガラ遲レテ來マシテ申譯ハナイガ、
此事ハ一ト通り心得テ居リマスカラ、何ナラ意見ヲ述ベマセウカ……

○議長(公爵近衛篤磨君) 説明ハ濟ンデ居リマスガ御意見ガアラバ御述ニ
ナッテモ……

○子爵谷千城君 イエ、ヒドウ御異議ガナク誠ニ安全ニ通過スレバソレデ宜
イノデ之ニ附イテハ私ハ確乎タル意見ガアリマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 讀會省署ハマダ成立ヲテ居リマセヌ
○子爵大田原一清君 贊成

○柴原和君 贊成
〔賛成ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 讀會省略ノ動議ハ成立チマシタ、之ニ賛成ノ諸君
ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半數ト認メマス、本案ハ可決ニナリマシタ、韓
國京釜鐵道速成ニ關スル建議案、子爵岡部長職君外ニ名發議、會議

韓國京釜鐵道速成ニ關スル建議案
右貴族院規則第六十四條ニ依リ提出候也

明治三十三年二月三日

發議者	子爵岡部長職	松平正直
水野遵	侯爵德川義禮	
贊成者	外百二十九名	

韓國京釜鐵道速成ニ關スル建議
貴族院議長公爵近衛篤磨殿

韓國京釜鐵道ハ日韓通商相互ノ利益上最モ緊要ニシテ速成ヲ必要トスルモ
ノナレハ政府ハ京釜鐵道會社ニ相當ノ保護ヲ與ヘ速ニ其ノ成功ヲ獎勵セラ
レムコトヲ望ム

右建議ス

〔水野遵君演壇ニ登ル〕

○水野遵君 諸君、韓國京釜鐵道ニ關スル建議案ハ極メテ簡單デゴザイマス

ル、併シ一ト通り極ク簡短ニ提出ノ理由ヲ申上ゲマシテ是ハ満場諸君ノ御賛成ヲ願ヒタイト存ジマス、韓國ト我ガ日本帝國トノ關係ハ諸君御承知ノコトデゴザイマスガ、近クハ明治九年ニ初メテ我ガ帝國ガ主人ト爲リマシテ彼國ノ頑固ナル門戸ヲ開イテ世界ニ韓國ヲ紹介致シマシテ文明ノ列ニ入レマシタ以來、明治十五年ニ明治十七年ニ我ガ帝國ハ幾多ノ人命及財産ヲ犠牲ニ供シテ彼國ノ爲ニ努メマシタルコトモ御承知ノ通リデゴザイマス、次ニハ明治二十七八年ノ戰役ニ至リマシテ彼國ノ獨立ヲ扶殖スルト云フコトニナリマシテ、韓國ニ對シマスル我ガ帝國ノ方針ハ始終一贯相變ツテ居リマセヌノデゴザイマス、而シテ韓國ノ開港場ニ於ケル我ガ帝國ノ勢力如何ト申シマスルト、是ハ實際御目擊ニナツタ御方ハ御承知テゴザイマスガ、中々我ガ日本國ノ勢力ハ彼國ニ深ク根ザシテ居リマス、殆ド彼國ニ住居スル人民ハ……永住スル帝國臣民ハ二萬ニ垂トシテ居ル、彼仁川釜山ノ居留地ノ有様ヲ見マスルト我ガ日本實業家ノ居留地ト言ハムヨリハ辭ハ少シ激デアリマスガ或ル點カラ申スト殆ド日本ノ植民地ト申シテ宜イ位ニ發達致シテ居ル、何トナレバ神社モアリ佛閣モアリ警察モアリ學校モアリ、殆ド此一部落へ這入りマスルト我ガ内地ノ小サイ昔ノ城下ニ通行致スト同様ナ感ジテ持チマス位ニ發達致シテ居リマス、ソレ故將來ハ韓國ノ商工業ノ發達ト申スモノハ即チ我ガ帝國實業家ノ手裏ニアツテ之ヲ左右セラル、即チ彼國ノ利益發達ハ我ガ帝國ノ臣民ノ力ニ依ツテ發達ナセヌケレバナラヌ有様ニナツテ居リマス、然ルチ今日マデ我が帝國ト韓國トノ交通ハ何ニ依ツテ居リマスルカト申スト、全ク海運ニ依テ居ル、マダ陸路ノ交通ト申スモノハ開ケテ居リマセヌ、ソレモ諸君ノ御承知ノ通リデ、是マデハ韓國ノ内地ヲ旅行スルスラ困難ナコトデゴザイマス、故ニ今日マデ開ケテ居リマセヌ、ソレ故彼國ノ將來ニ向ツテ利源ヲ開發シ從テ我ガ帝國ノ利益ヲ進メルト云フニ附イテハドウ致シテモ將來ニ於テハ彼國ノ陸路ノ交通ハ我ガ帝國ノ臣民ノ財力ト智力トニ依ツテ開發ナセヌケレバナラヌコトハ申スマデモゴガリマセヌ、而シテ之ニ極メテ關係ナ有シマスルノハ今日世上ニ成立タムトシテ未ダ成立ツテ居リマセヌ京釜鐵道ト申スモノガゴザイマスガ、之ニ附イテハ諸君モ御承知ノ通リ明治二十八年ノ際ニ韓國ト我ガ帝國トノ間ニ約束ガゴザイマシテ、是が暫定條約ト申シマス暫ク定メルト云フ字ヲ書ク、而シテ是ハ彼國ノ京城ヨリ釜山ニ至ルマデ殆ド三百哩ノ鐵道ノ敷設ヲ我ガ帝國臣民ノ私立會社デ致スカト云フコトノ約束ガ成立ツテ居リマス、ソレト同時ニ京城ト仁川ノ間ノ鐵道敷

設權モ我ガ帝國ノ手ニ收メテゴザイマス、然ルニ其後經濟社會ガ一頓挫ナ致シタ爲デアルガニ年程空シク歲月ヲ經過致シタガ爲ニ京城ト仁川トノ間ノ今日申ス京仁鐵道ト申スモノハ亞米利加人ノも一るすト云フ者ニ韓國政府ガ更ニ特許ヲ與ヘマシテ、即チ一旦日本ニ得タル所ノ權利ヲ舉ケテ亞米利加人ノも一るすナル者ニ韓國政府ガ與ヘマシタ次第デアリマス、ソレニ附イテ彼是今日御話申ス必要モアリマセヌガ、其結果タルヤも一るすガ分幾ノ準備ヲ致シ鐵道モ幾分カ敷設致シマシタルモノヲ又我ガ帝國ノ今日京仁鐵道會社ニ買收致シタヤウナ譯合デアリマス、一度得タル權利ヲ彼外國人ニ取ラレテ、ソレヘ鐵道ヲ敷設致シテ、ソレヲ再ビ我ガ帝國ノ臣民ノ手ニ買戻シタト云フコト、買戻シタデアルカ買入レタデアルカ致シテ詰ル所、早クコチラガ手ヲ入レマセナンダガ爲ニ利益、手數料ト云フモノナ第三者ニ我ガ帝國ガ拂ウタト申シテモ宜シイ結果ニ相成ツテ居リマス、是ガ一昨年當議場ニ協賛ニナリマシタ京仁鐵道ノ成立ツタ概略デゴザリマスルガ、ソレト同様ニ京釜鐵道ハマダ第三者ガ出テ居リマセヌガ故ニ、京仁鐵道ノ如キ困難ハゴザイマセヌガ、是ハ其後會社ト韓國政府トノ條約ガゴザリマシテ、其條約ハ三年ノ間ニ工事ニ著手ナ致サヌケレハ其權利ハ消滅ナ致スト云フコトノ條約ニナツテ居ル、即チ其權利ハ何時ヨリ生ジタカト云フト、明治三十一年ノ九月ヨリ生じテ居リマスガ故ニ、三十四年ノ九月ニ至ルト此權利ハ消滅ナ致ス、若シモ此時機ヲ失シマシテ消滅致シテ更ニ此權利ナ得ヤウトスルコトハ隨分困難ナコトデハナイカト本員共ハ考ヘル、然ルニ京仁鐵道モ一時ハ發起者等モ百何十人ト出來マシテ、又實地ノ踏査等モ濟ンデ居リマスル様子デゴザリマスガ、何分ニモ經濟社會不振ノ爲ニ實際事業ニ著手スル運ビニ至ツテ居リマセヌ模様デゴザリマス、ソレ故ニ此京釜鐵道敷設ニ附イテハ最初其事ニ斡旋ナサレタル内閣ハ前々ノ伊藤内閣ノ時代デアツテ、ソレカラ幾多ノ内閣ヲ經テ今日ニ至ツテ居リマスルガ、是ハ我官民ニ於テハ一人ノ不同意者モゴザイマスマニ、此頃中世間デモ議論ガゴザイマスルガ如ク、唯此事ニ附イテノ問題ハ何デアルカト云ヘバ、京釜鐵道ノ必要不必要ト云フ話デナクシテ、唯時ト云フ問題デ、即チ時機ト云フ問題ガツ起ツテ居ラウト私共ハ考ヘテ居ル、何トナレバ經濟社會不振ノ爲殆ド二千五百萬圓ノ鐵道敷設ヲスルコトガ出來ルヤ否ヤ、其資本ハ何處ニアルヤト云フ即チ經濟不振ノ時ニ際シテ居ルニ依ツテ此鐵道ハ出來マイト云フ心配ノ時ト、モウ一ツニハ又一ツノ時ガアツテ其時ハ所謂時機デ、此際ニセヌケレバ假令先キニ至ツテ一億圓ノ資金ガアツテモ最早

既ニ権利ハ我手ヨリ失シテシマツタキハ致方ガナイニ依ッテ、濟經上ノ不振ハ免モ角モ、ドウナリトモ工面ナ致シテ此鐵道ヲ敷設スルト云フコトハ我が國家ノ義務デハナイカト、即チ是モ時ノ問題デゴザリマス、又世ニ他ノ強國トノ交際上ノコトニ附イテ話ナル人等モゴザリマスガ、是等ハ全ク謂レナキコトデ、今日此際ニソレ等ノコトヲ以テ此鐵道敷設ヲ妨ゲベキ時機デハナイト本員共ハ深ク信ジマス、免モ角モ今日ハ我が帝國ニ得テ居ル所ノ敷設權ヲ棄テシマツテ二十四年九月三十日以後ノ曉ニハドウナルカト云フコトヲ想像致シマスルト、或ハ恐ル旭日日章以外ノ旗ガ釜山ノすてーしょんニ建ツコトアラズト申スコトハ斷言モ出來マセヌ、若シサウ云フヤウナ時ニハ千回萬回脣ヲ噛ンデモ致方ガアリマセヌ、若シ左様ナツタナラバ彼ノ韓土ニ向テ我ガ勢力ナ伸バスクトガ出來マセヌ、從ツテ彼國ノ人民ヲ開發誘導スル所ノ我が帝國ノ從來ノ方針ヲ水泡ニ歸スルコトニ至ラムモ限リマセヌト思ヒマス、ソレ故ニ本員共ガ此際建議ヲ致シマスルノハ即チ是ハ私立ノ會社ノ營利事業トハ言ヘ幾多ノ歴史ヲ持ツテ居ル鐵道デゴザイマスル故ニ國家ハ須カラク此會社ノ成立ヲヤウニ相當ノ保護ヲ致シ誘掖ヲ致スコトノ手段ヲ執ラル、コトガ相當ト存シマス、私共ハ寧ロ是ハ官設鐵道ニ致シテ官設鐵道ト云ト考ヘマスルガ、是等ハ從來ノ行掛リ又交際上ノ關係カラシテ官設鐵道ト云フ譯ニモ參リマスマイ、幸ニ將ニ崩サウトシテ居ル所ノ此京釜鐵道ト申スモノガゴザリマスル故ニ、此會社ニ速ニ成立サスルコトハ國家ノ義務デアラウト有ジマスルガ故ニ、此建議ヲ致サウト云フノデアリマス、誠ニ極ク概略デゴザリマスルガ、此邊デ説明ハ止メマスルガ故ニ、須カラク御熟考ノ上、滿場一致ヲ以テ御賛成アラムコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデハ休憩ニ致シマス
○子爵谷干城君 隨分長ウゴザリマスカラ……
○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデハ休憩ニ致シマス
午前十一時四十九分休憩

〔子爵谷干城君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 何デスカ
○子爵谷干城君 定足數ニ足ラヌノデスカ
午後一時八分開議

トヲ想像致シマスルト、或ハ恐ル旭日日章以外ノ旗ガ釜山ノすてーしょんニ建ツコトアラズト申スコトハ斷言モ出來マセヌ、若シサウ云フヤウナ時ニハ千回萬回脣ヲ噛ンデモ致方ガアリマセヌ、若シ左様ナツタナラバ彼ノ韓土ニ向テ我ガ勢力ナ伸バスクトガ出來マセヌ、從ツテ彼國ノ人民ヲ開發誘導スル所ノ我が帝國ノ從來ノ方針ヲ水泡ニ歸スルコトニ至ラムモ限リマセヌト思ヒマス、ソレ故ニ本員共ガ此際建議ヲ致シマスルノハ即チ是ハ私立ノ會社ノ營利事業トハ言ヘ幾多ノ歴史ヲ持ツテ居ル鐵道デゴザイマスル故ニ國家ハ須カラク此會社ノ成立ヲヤウニ相當ノ保護ヲ致シ誘掖ヲ致スコトノ手段ヲ執ラル、コトガ相當ト存シマス、私共ハ寧ロ是ハ官設鐵道ニ致シテ官設鐵道ト云ト考ヘマスルガ、是等ハ從來ノ行掛リ又交際上ノ關係カラシテ官設鐵道ト云フ譯ニモ參リマスマイ、幸ニ將ニ崩サウトシテ居ル所ノ此京釜鐵道ト申スモノガゴザリマスル故ニ、此會社ニ速ニ成立サスルコトハ國家ノ義務デアラウト有ジマスルガ故ニ、此建議ヲ致サウト云フノデアリマス、誠ニ極ク概略デゴザリマスルガ、此邊デ説明ハ止メマスルガ故ニ、須カラク御熟考ノ上、滿場一致ヲ以テ御賛成アラムコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 足リマセヌ
○子爵谷干城君 足リマセヌナラバ次ニ願ヒタイト思ヒマス、私ハ十分ニ意見ヲ皆サンニ聽イテ戴キタイカラ……
○議長(公爵近衛篤磨君) 待ツテ下サイ……今朝御委托ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

〔河田書記官朗讀〕

土地收用法案特別委員

子爵大田原 一清君	松平 正直君	男爵北垣 國道君
男爵小澤 武雄君	周布 公平君	渡 正元君
富井 政章君	天春 文衛君	最上 廣胖君

郵便爲替法案外三件特別委員

子爵岡部 長職君	子爵錦織 教久君	宮本 小一君
男爵鈴木 大亮君	男爵吉川 重吉君	山脇 玄君
高橋 新吉君	中山 文樹君	岡田 太平治君

衆議院議員選舉法改正法律案特別委員

侯爵黒田 長成君	伯爵清棲 家教君	子爵谷 干城君
子爵曾我 祐準君	子爵堀田 正養君	子爵松平 乘承君
男爵尾崎 三良君	三好 退藏君	松岡 康毅君

松平 正直君	三浦 安君	渡邊 洪基君
男爵小澤 武雄君	名村 泰藏君	男爵船越 衛君
周布 公平君	男爵南岩倉 具威君	都筑 肇六君

鑄業條例中改正法律案特別委員

伯爵坊城 俊章君	男爵尾崎 三良君	田中 芳男君
男爵藤村 紫朗君	男爵島津 珍彦君	男爵紀 俊秀君
男爵吉川 重吉君	武井 守正君	住友吉左衛門君

三崎 龜之助君	穂積 八束君	鎌田 勝太郎君
天春 文衛君	田中 源太郎君	山田 卓介君
早川 周造君		

○議長(公爵近衛篤磨君) 今日ハ定足數ニ闕ケテ、暫ク待ツテ居リマシタガ寄リマセヌカラ散會致シマス、明日ノ日程ヲ御報道致シマス

〔河田書記官朗讀〕

午前十時開議

- 第一 重罪控訴豫納金規則廢止法律案(衆議院提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第三 輕罪控訴規則廢止法律案(衆議院提出)
- 第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
罰金及追徵ニ係ル上告豫納金廢止法律案(衆議院提出)
- 第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
罰金及追徵ニ係ル上告豫納金廢止法律案(衆議院提出)
- 第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
- 第七 韓國京釜鐵道速成ニ關スル建議案(子爵岡謙美二名發議)
○議長(公爵近衛篤磨君) 本日ハ散會
- 第八 帝國教育會國庫補助ニ關スル建議案(子爵長岡謙美四名發議)
- 午後一時十五分散會

會議(前會ノ續) 會議